

インフロニア・ホールディングス
23年3月期 第2四半期アナリスト向け決算説明会



November 14, 2022

23年3月期 第2四半期 決算説明会 目次

本編

1. 決算のポイント
2. インフロニア・ホールディングスの業績数値の推移
3. 決算の概要
4. セグメント別 売上高・利益の内訳
5. 手持工事高、受注高、受注時利益率の推移
(建築、土木セグメント)
6. 資本戦略・還元方針／FY22 2Qの実績と見通し

セグメント別ハイライト

1. 建築セグメント 売上高と売上総利益の推移
2. 建築セグメント 受注高と受注時利益率の推移
3. 建築セグメント 建物用途別 国内受注比率の推移
4. トピックス
「大型再開発事業の受注強化／グリーンファクトリーへの取組み」
5. 土木セグメント 売上高と売上総利益の推移
6. 土木セグメント 受注高と受注時利益率の推移
7. トピックス
「山岳トンネル労働災害撲滅に向けた技術開発」
8. インフラ運営セグメント 利益貢献額について
9. HD体制への移行に伴う官民連携の取組実績
10. 国内の主なインフラ運営事業
11. 三浦市公共下水道（東部処理区）運営事業のご紹介
12. 舗装セグメント 建設事業 受注高、売上高、売上総利益の推移
13. 舗装セグメント 製造販売 売上高と売上総利益の推移
14. 舗装セグメント 物価高騰の影響について
15. 機械セグメント 売上高と売上総利益の推移
16. トピックス「カーボンニュートラル製品の市場への投入」

Appendix

1. 【個別】前田建設 FY22 2Q実績と通期計画
2. 【連結】前田道路 FY22 2Q実績と通期計画
3. 【連結】前田製作所 FY22 2Q実績と通期計画
4. 主なグループ会社のFY22 2Q実績と通期計画
5. セグメント分けの変更
6. インフラ運営事業（脱請負）のビジネスモデル
7. インフラ運営事業（脱請負）の新たな事業プラットフォームの構築
8. インフラ運営事業（脱請負）の第1号投資案件
9. 政策動向：PPP/PFI推進アクションプラン
(令和4年度改訂版) が内閣府より公表
10. インフラ運営セグメント「利益貢献額」と「セグメント利益」の違いについて
11. トピックス「低炭素合材の推進」
12. トピックス「統合報告書2022 ～安全安心とサステナビリティ～」

1. 決算のポイント

① FY22 2Q実績・通期計画について (P.4, P.7)

- **2Qの実績については、前年同期比で増収増益**となった。原油価格の高騰及び円安の影響により舗装セグメントが減益となったが、インフラ運営事業の増益により利益を確保した
- **通期の当期純利益については過去最高**となる見込み (対前田建設連結比)

② セグメント毎のFY22 2Q実績・通期計画について (P.9-29)

建築・土木セグメント (P.9-17)

- 建築の受注は今後、高い利益率の大型案件受注を見込んでおり、**通期計画の受注時利益率7%を確保できる見込み**
- 建築は、好採算の手持工事が一部遅れているが、通期では前年比増収増益の見込み
- 土木は、好採算の手持工事が一部遅れているが、通期では前年同様高水準の利益率を見込む

インフラ運営セグメント (P.18-22)

- **2Qの実績、通期計画共に前年同期比で大幅に増収増益**
- 大阪市工業用水道コンセッションに続き、国内初となる下水道の処理場、ポンプ場、管路の全ての維持管理から更新までを含む**三浦市公共下水道コンセッションの基本協定を締結 (来年4月からの開業準備進行中)**

舗装セグメント (P.23-26)

- **2Qの実績については、前年同期比減益**となった。昨年度からアスファルト合材の販売価格の値上げを進めているが、原油価格の変動に加え、予想以上に円安が進行したことにより、原材料費高騰分を吸収できなかった
- 下期に出荷が集中していくため、**更なる値上げを実行し、業績改善を見込む**

1. 決算のポイント

機械セグメント (P.27-29)

- **2Qの実績については、前年同期比並**となった。「クローラクレーン」をはじめとする自社製品の販売が堅調に推移したことにより、部品供給の遅れ及び資材高騰の影響は限定的であった
- 下期にかけても、引続き部品供給の遅れ等による影響は懸念されるが、需要は堅調であり、**通期業績は前年並の見込み**

③株主還元について (P.8)

- FY21の自己株式200億円取得に引き続き、**FY22中に100億円取得し、速やかに消却**の予定
(8月10日発表)

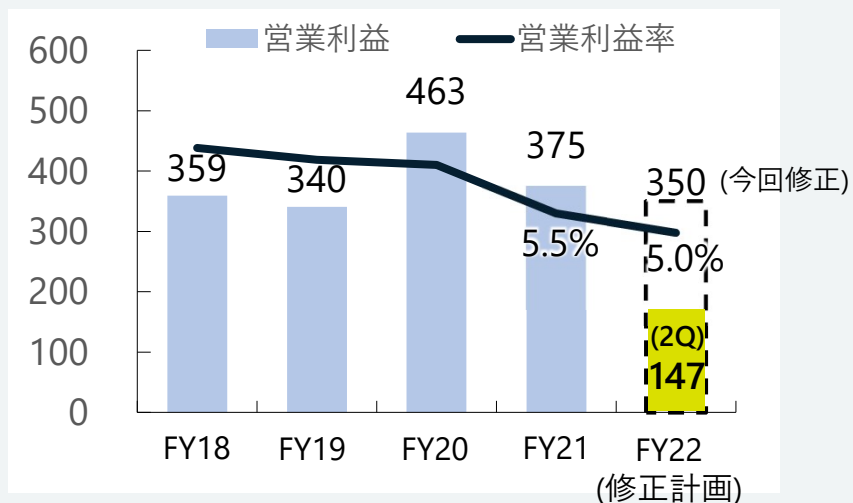
④政策保有株について (P.8)

- FY22中に200億円程度を目標に**売却を進行中 (2Q時点25.5%,200億円売却できた場合は21.1%)**
- 1年度前倒しで、**FY23中に中期経営計画目標20%以下**の達成を目指す

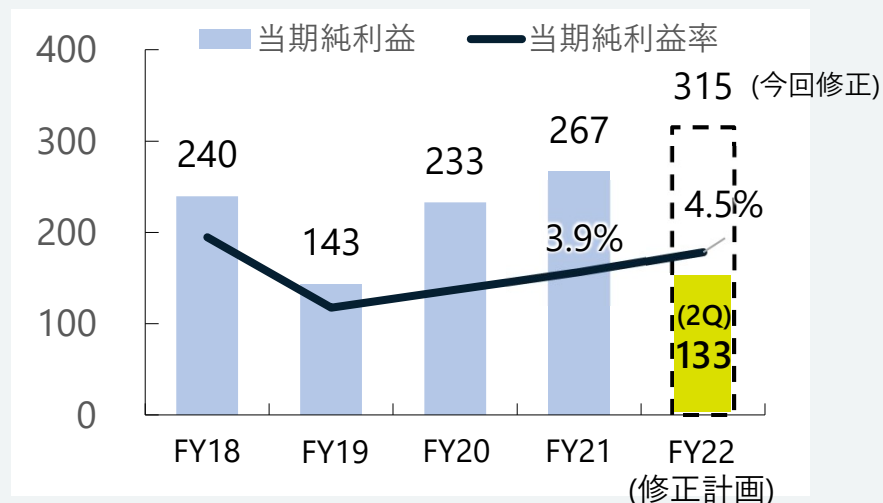
2. インフロニア・ホールディングスの業績数値の推移

- **当期純利益は過去最高**（対 旧前田建設連結）
- 営業利益および付加価値額※は前期並みを見込む

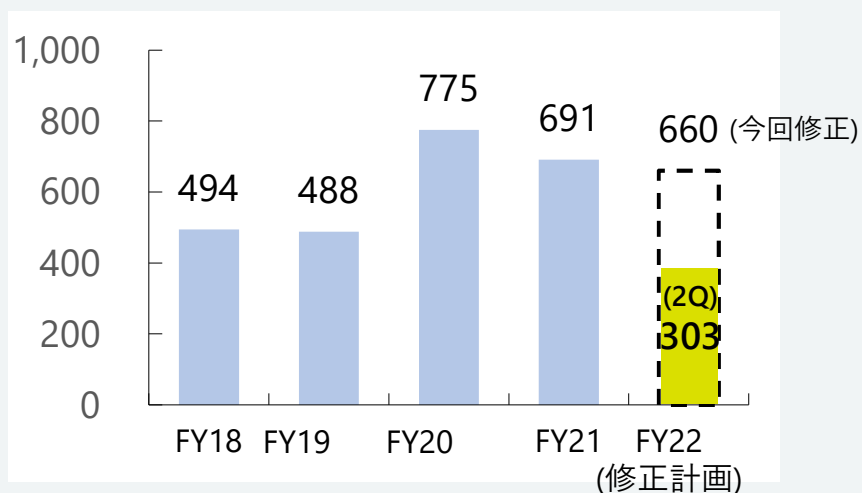
営業利益



当期純利益

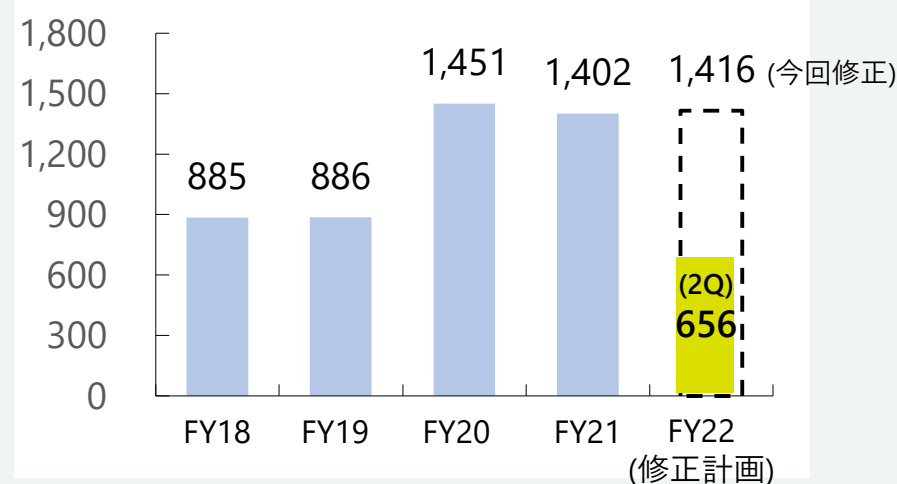


EBITDA



付加価値額

※付加価値額 = 営業利益 + 総人件費 + 減価償却費 + 研究開発費



3. 決算の概要

- 2Q実績は、風力発電事業の売却等により**前年同期比で増収増益**
- 通期計画は、工事進捗の遅れ等により今回修正したが、政策保有株の売却等により、当期純利益については**過去最高**となる見込み（対前田建設連結比）

（億円）

| | 前田建設 (連結) | インフロニアHD | | |
|--------------|------------------|-------------------|-----------|--------------|
| | FY21 2Q実績 | FY22 2Q実績 | 前年 同期 | 進捗率 |
| 売上高 | 3,082 | 3,135 | 53 | 44.5% |
| 売上総利益 | 356 (11.6%) | 428 (13.7%) | 72 | 43.5% |
| 一般管理費 | 265 (8.6%) | 281 (9.0%) | 16 | 50.3% |
| 営業利益 | 91 (3.0%) | 147 (4.7%) | 56 | 34.5% |
| 営業外収益 | 17 0.55% | 30 (0.9%) | 13 | 80.0% |
| 営業外費用 | 17 0.55% | 16 (0.5%) | △1 | 55.4% |
| 経常利益 | 92 (3.0%) | 160 (5.1%) | 68 | 36.9% |
| 特別利益 | 32 (1.0%) | 31 (1.0%) | △1 | — |
| 特別損失 | 3 (0.1%) | 3 (0.1%) | 0 | — |
| 当期純利益 | 48 (1.6%) | 133 (4.2%) | 85 | 41.0% |
| 自己資本 | 2,676 | — | | |
| ROE | — | — | | |
| EPS | — | — | | |

| インフロニアHD | | | | |
|-------------------|-------------------|-------------------|------------|------------|
| FY21 通期実績 ① | FY22 | | | 前期比 ③-① |
| | 通期予想 ② | 修正予想 ③ | 差 ③-② | |
| 6,829 | 7,306 | 7,050 | △256 | 221 |
| 916 (13.4%) | 985 (13.5%) | 921 (13.1%) | △64 | 5 |
| 541 (7.9%) | 559 (7.7%) | 571 (8.1%) | 12 | 30 |
| 375 (5.5%) | 426 (5.8%) | 350 (5.0%) | △76 | △25 |
| 41 (0.6%) | 37 (0.5%) | 46 (0.7%) | 9 | 5 |
| 35 (0.5%) | 29 (0.4%) | 28 (0.4%) | △1 | △7 |
| 380 (5.6%) | 435 (6.0%) | 368 (5.2%) | △67 | △12 |
| 85 (1.2%) | — | — | — | — |
| 20 (0.3%) | — | — | — | — |
| 267 (3.9%) | 324 (4.4%) | 315 (4.3%) | △9 | 48 |
| 3,469 | — | — | | |
| 7.7% | — | — | | |
| 94.7円 | 123.3円 | 121.5円 | | |

4. セグメント別 売上高・利益の内訳

(億円)

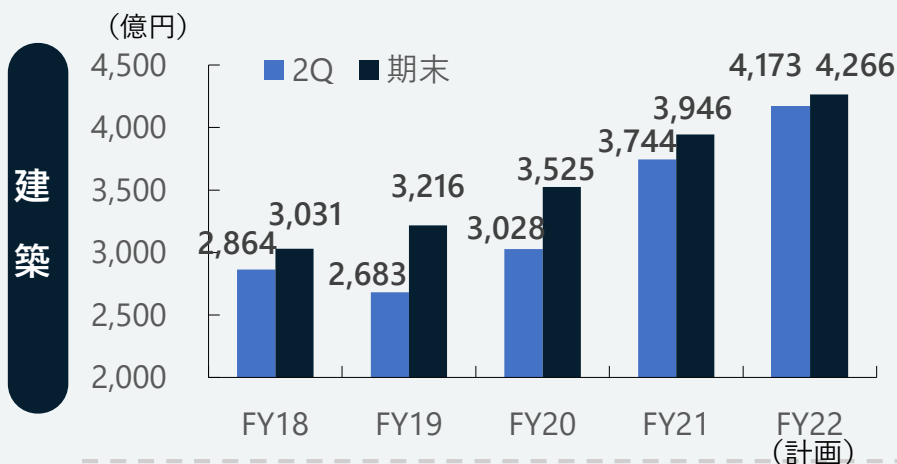
| 前田建設 (連結) 旧セグメント | | インフロニアHD | | インフロニアHD | | | | 前期比 ①-③ |
|---------------------|--------|--------------|--------------|-------------|-------------------|-------------------|-------------------|------------|
| | | FY21 2Q実績 | FY22 2Q実績 | 進捗率 | FY21 通期実績 ① | FY22 通期計画 ② | FY22 修正計画 ③ | |
| 3,082 | 売上高 | 3,135 | 44.5% | 6,829 | 7,306 | 7,050 | △ 256 | 221 |
| 1,159 | 建築 | 869 | 38.1% | 2,161 | 2,383 | 2,284 | △ 99 | 123 |
| 610 | 土木 | 686 | 46.6% | 1,426 | 1,556 | 1,470 | △ 86 | 44 |
| 1,054 | 舗装 | 1,091 | 46.2% | 2,328 | 2,401 | 2,360 | △ 41 | 32 |
| 162 | 機械 | 163 | 45.9% | 353 | 355 | 355 | 0 | 2 |
| 77 | インフラ運営 | 147 | 68.5% | 187 | 217 | 215 | △ 2 | 28 |
| 20 | その他 | 179 | 48.8% | 374 | 395 | 366 | △ 29 | △ 8 |
| 356 (11.6%) | 売上総利益 | 428 (13.7%) | 46.5% | 917 (13.4%) | 985 (13.5%) | 921 (13.1%) | △ 64 | 5 |
| 101 (8.7%) | 建築 | 74 (8.5%) | 30.8% | 234 (10.8%) | 259 (10.9%) | 240 (10.5%) | △ 19 | 6 |
| 97 (15.8%) | 土木 | 137 (20.0%) | 53.9% | 260 (18.3%) | 241 (15.5%) | 254 (17.3%) | 13 | △ 6 |
| 93 (8.9%) | 舗装 | 81 (7.4%) | 38.7% | 225 (9.7%) | 263 (11.0%) | 210 (8.9%) | △ 53 | △ 15 |
| 31 (19.0%) | 機械 | 34 (20.6%) | 44.6% | 74 (20.9%) | 75 (21.2%) | 75 (21.2%) | 0 | 2 |
| 22 (29.0%) | インフラ運営 | 86 (58.3%) | 85.9% | 76 (40.6%) | 100 (46.1%) | 100 (46.5%) | 0 | 24 |
| 12 (58.5%) | その他 | 17 (9.4%) | 40.1% | 48 (12.8%) | 47 (11.8%) | 42 (11.5%) | △ 5 | △ 6 |
| 91 (3.0%) | 営業利益 | 147 (4.7%) | 42.0% | 375 (5.5%) | 426 (5.8%) | 350 (5.0%) | △ 76 | △ 25 |
| 15 (1.3%) | 建築 | △ 2 (-0.2%) | -1.7% | 92 (4.2%) | 116 (4.9%) | 88 (3.9%) | △ 28 | △ 4 |
| 44 (7.2%) | 土木 | 82 (11.9%) | 58.0% | 152 (10.6%) | 138 (8.9%) | 141 (9.6%) | 3 | △ 11 |
| △ 0 (0.0%) | 舗装 | △ 18 (-1.7%) | -138.6% | 33 (1.4%) | 58 (2.4%) | 13 (0.6%) | △ 45 | △ 20 |
| 8 (5.1%) | 機械 | 6 (3.5%) | 38.5% | 18 (5.2%) | 15 (4.2%) | 15 (4.2%) | 0 | △ 3 |
| 14 (18.7%) | インフラ運営 | 76 (51.8%) | 95.5% | 61 (32.6%) | 82 (37.8%) | 80 (37.2%) | △ 2 | 19 |
| 10 (51.0%) | その他 | 3 (1.4%) | 19.3% | 19 (5.1%) | 17 (4.3%) | 13 (3.6%) | △ 4 | △ 6 |

※セグメント分けの詳細についてはP.35をご参照ください

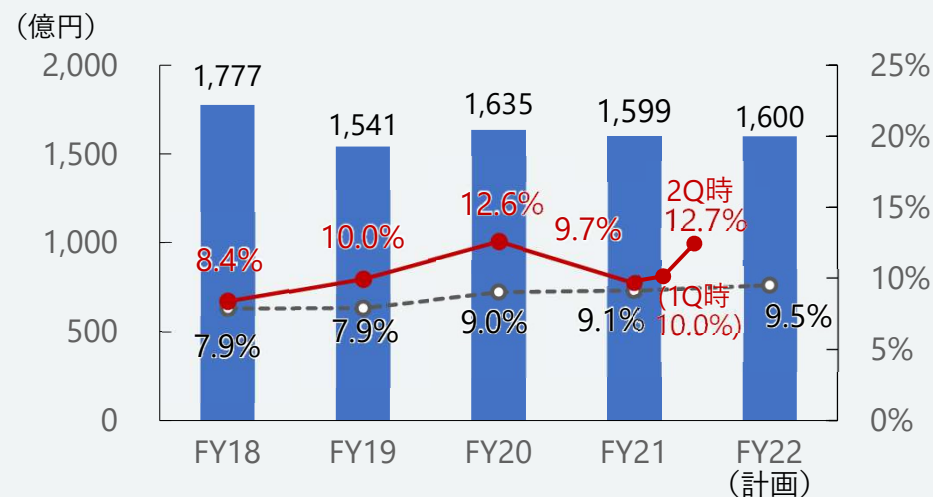
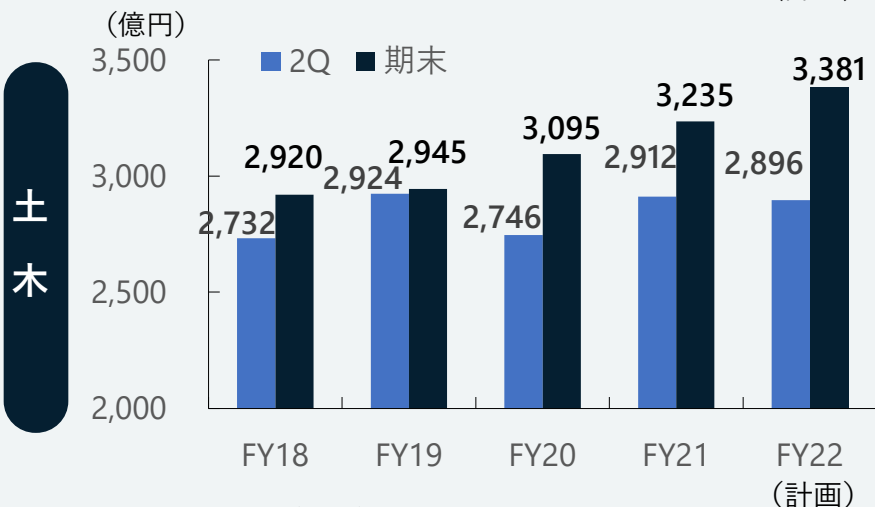
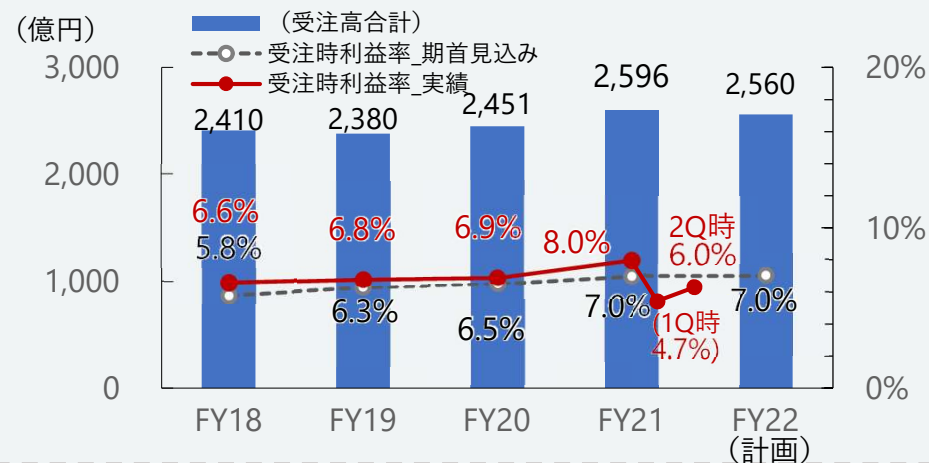
5. 手持工事高、受注高、受注時利益率の推移（建築、土木セグメント）

- 建築の2Q時、期末計画の手持工事高は**過去最高額**
- 建築の受注時利益率は、1Q時で物価上昇の影響により一時的に低下していたが、物価上昇等の設計変更を予定通り獲得し、2Q時では6.0%へ回復した。下期以降も順調に回復する見込み
- 物価上昇分の交渉に加え、引き続き受注競争に巻き込まれにくい**上流からの作り込み**（安定顧客、設計施工比率、大型案件情報確保）により、受注時利益率管理を徹底する

手持工事高の推移※



受注高・受注時利益率の推移※



※前田建設（個別）の業績数値

6. 資本戦略・還元方針／FY22 2Qの実績と見通し

株主還元

- FY21の自己株式200億円取得に引き続き、**FY22中に100億円取得し、速やかに消却**の予定（8/10発表）

政策保有株

- FY22中に200億円程度を目標に**売却を進行中**（2Q時点25.5%,200億円売却できた場合は21.1%）
- 1年度前倒しで、**FY23中に中期経営計画目標20%以下**の達成を目指す

| Medium-term Vision 2024 (中期経営計画) | | | FY22 2Q実績 | 備考 |
|-------------------------------------|-----------------|------------------------------------|---------------------------|--|
| 資本効率 | ROE | 9.5% | — | — |
| 最適 資本構成 | 自己資本比率 | 30%以上 | 39.3% | FY22 2Q時点 |
| | D/Eレシオ | 0.6倍以下 | 0.5倍 | FY22 2Q時点 |
| 株主還元 | 配当性向 | 30%以上 | 32.9% (期末見込) | FY22通期計画 1株当たり配当額 40円 |
| | 自己株式の 取得 | FY24までに 400億円以上 | FY22中に100億円取得 (8/10発表) | FY21で200億円を取得済 目標の早期達成に向け前倒しで取り組む |
| | 総還元性向 | — | 66.6% (期末見込) | FY22通期計画 配当性向32.9% + 自己株式取得31.7% + 地球への配当2.0% |
| 資産 効率化 | 政策保有株/ 純資産割合 | 20%以下 | 25.5% | 2Q時約45億円の売却が進行 FY22 1Q 27.6% → FY22 2Q 25.5% 2Q時点は25.5%,200億円売却できた場合は21.1% |
| | 保有資産の 売却 | グループ保有資産の利用状況等を精査し、非効率な資産の売却・統合を検討 | | |

セグメント別ハイライト

建築

土木

インフラ運営

舗装

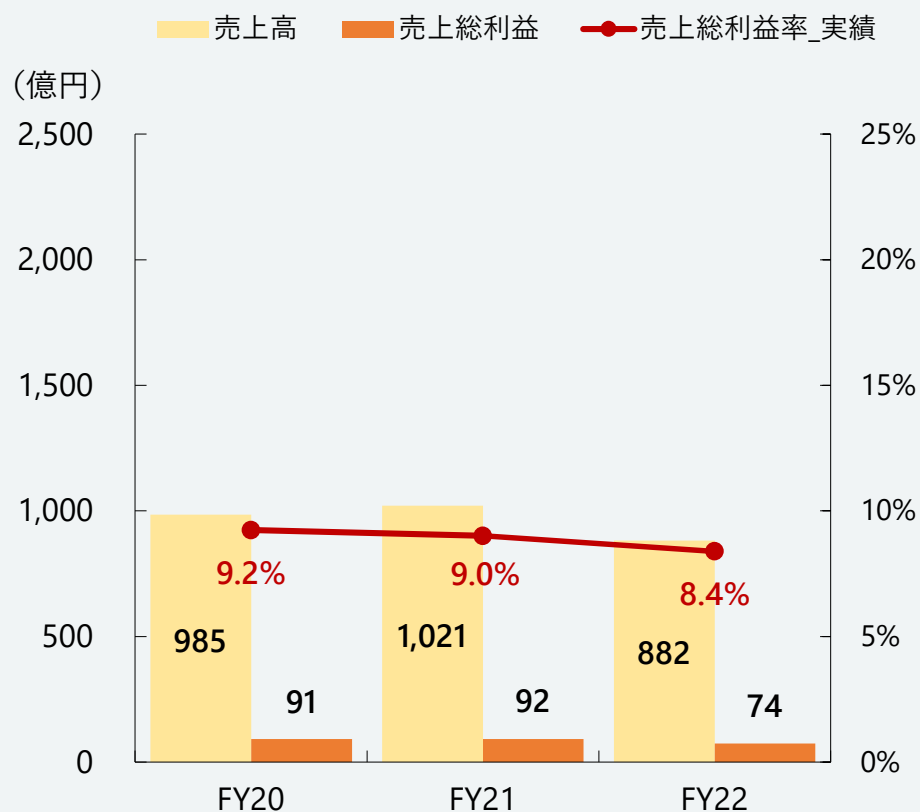
機械

その他

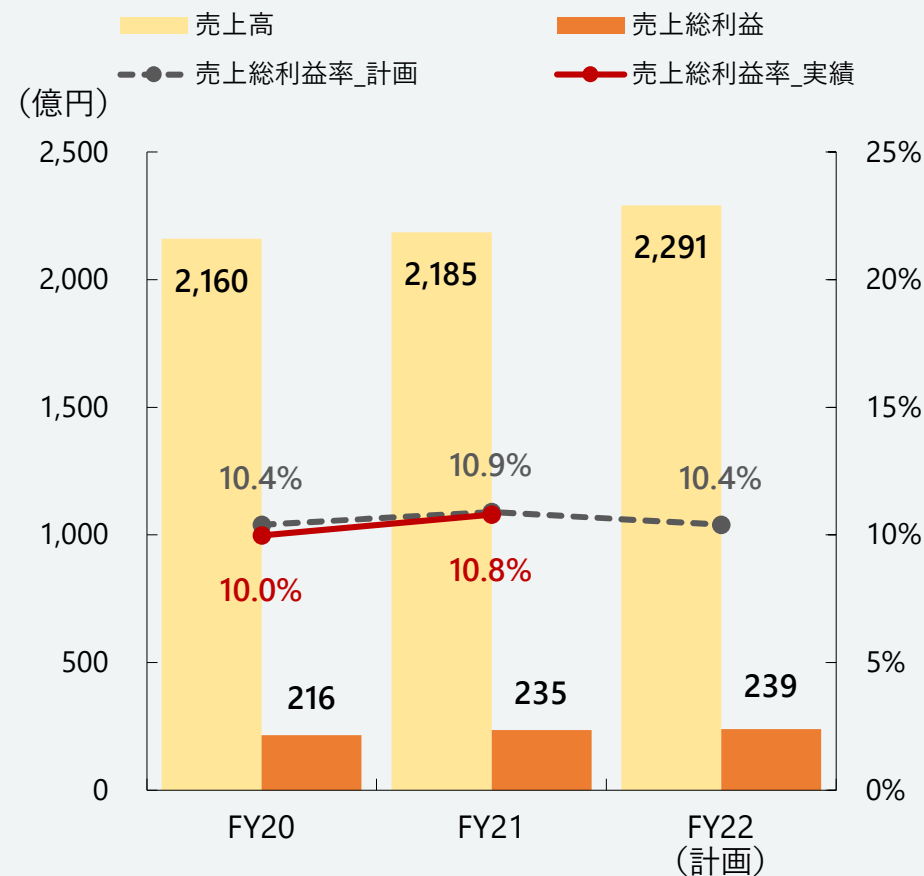
1. 建築セグメント 売上高と売上総利益の推移（前田建設 個別 国内）

- FY22 2Q 着工遅れ、施工計画の見直し等により、完工高の進捗に遅れが生じている
- FY22通期 期末に向けて大型案件が完工を迎えるため、完工高・完工利益とも回復の見込み

第2四半期※



通期※



※不動産事業を含む数値のため、FY21以前の数値は過去の決算説明資料と数値が異なる。
 海外の主要現地法人の売上高、売上総利益はインフロニア・ホールディングス その他セグメントに含まれる。

2. 建築セグメント 受注高と受注時利益率の推移（前田建設 個別）

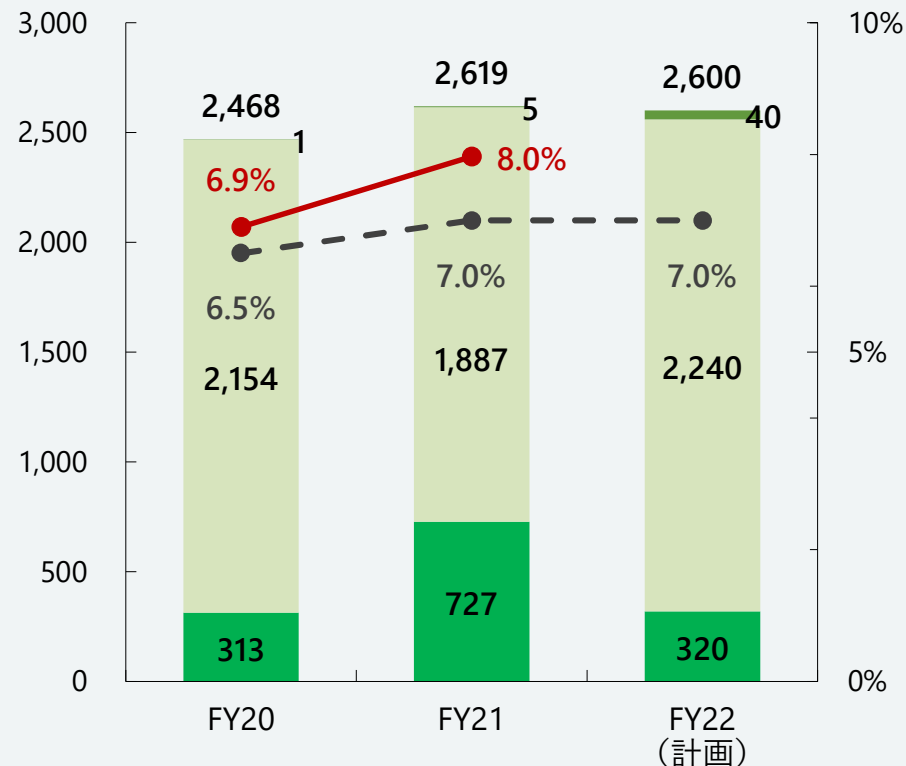
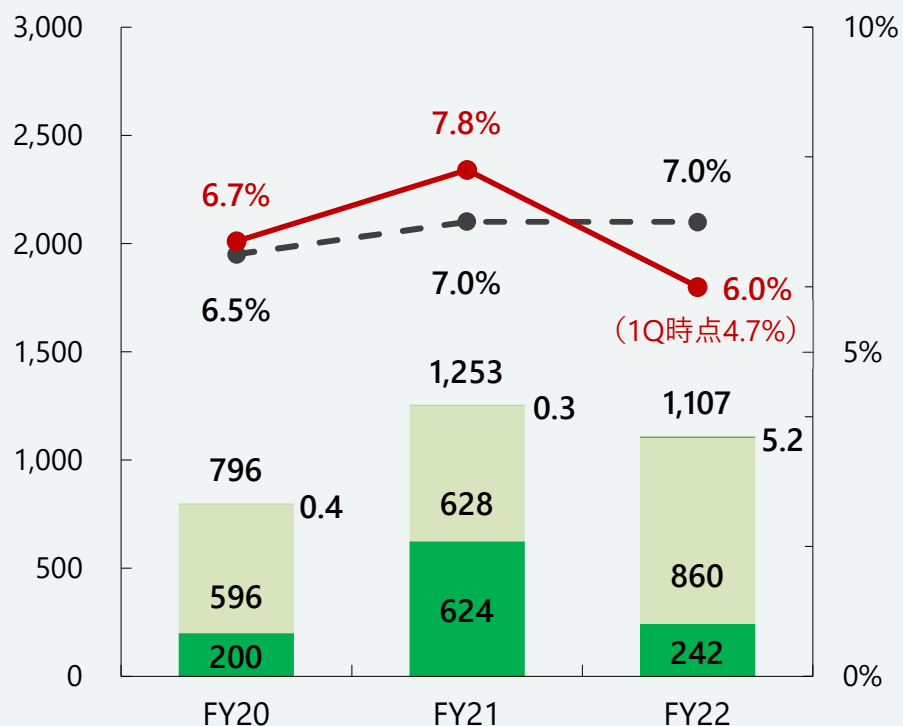
- FY22 2Q 受注時利益率は、1Q時で物価上昇の影響により一時的に低下していたが、物価上昇等の設計変更を予定通り獲得し、2Q時では6.0%へ回復
- FY22通期 下期は高い利益率の大型案件受注を見込んでおり、計画の受注高2,600億円を見込む
物価上昇等の設計変更を予定通り獲得することで、計画の受注時利益率7%を見込む

(億円) **第2四半期***

(億円) **通期***

■ 受注高（官庁） ■ 受注高（民間） ■ 受注高（海外）
 ● 受注時利益率_計画 ● 受注時利益率_実績

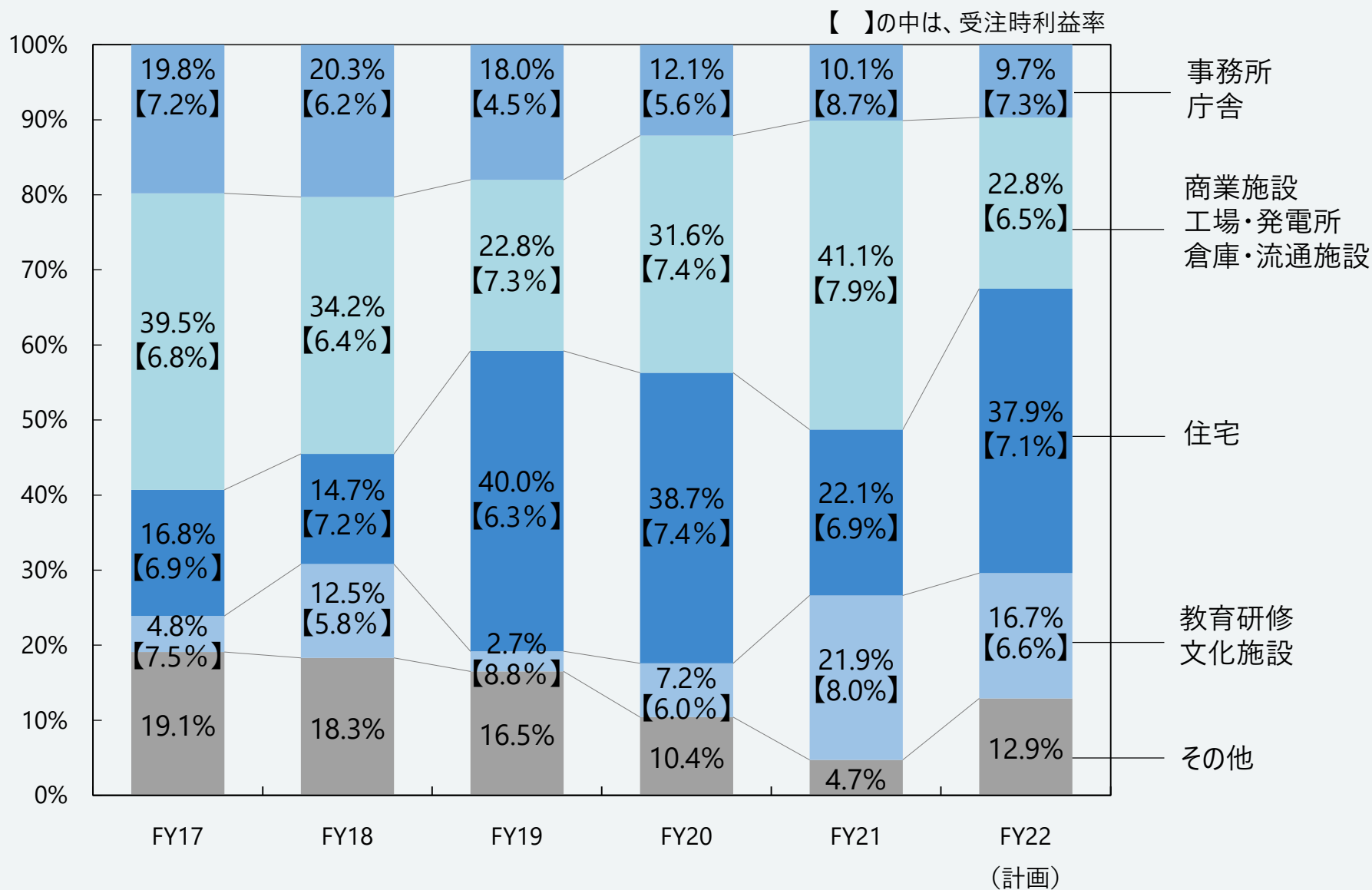
■ 受注高（官庁） ■ 受注高（民間） ■ 受注高（海外）
 ● 受注時利益率_計画 ● 受注時利益率_実績



※不動産事業を含む数値のため、FY21以前の数値は公表資料と数値が異なる。
 ※海外については、当時の為替レートにより算定した額。

3. 建築セグメント 建物用途別 受注比率の推移（前田建設 個別 国内）

- FY22 通期 大型再開発プロジェクトを複数受注することで、住宅の構成比率が高まる見込み
工場・倉庫の受注も増加傾向にあり、住宅に次いで比率が高まる見込み



4. トピックス「大型再開発事業の受注強化／グリーンファクトリーへの取組み」

南池袋二丁目C地区第一種市街地再開発事業に伴う 施設建築物等の新築工事（北街区）



池袋副都心に隣接した立地特性を活かし、東池袋駅周辺の拠点となるよう、土地の高度利用を図るとともに、多様な用途による賑わいと安全で快適なまちの実現を目指すプロジェクト。
地上52階・高さ190mの超高層建物であり、878戸の居住機能の他に公共施設や店舗機能も備える。

発注者：南池袋二丁目C地区市街地再開発組合

株式会社ヨロズ 東海プロジェクト第一期新工場建設工事



岐阜県安八郡輪之内町に自動車部品の製造工場の建設。
「環境」に最大限配慮する工場として、全てのエネルギーを電化し、太陽光発電など自然エネルギーを活用することでCO2排出ゼロを目指す。
また、「地域との共生」のコンセプトのもと、事務所棟には地域交流などを目的とした多目的スペースも配置されている。

発注者：株式会社 ヨロズ

| | |
|-------|------------------|
| 用途 | 共同住宅、公共公益施設、店舗等 |
| 構造・規模 | RC造、地下2階・地上52階 |
| 延床面積 | 111,877㎡ |
| 工期 | 2022年10月～2026年3月 |

| | |
|-------|------------------|
| 用途 | 工場 |
| 構造・規模 | S造、地下-階・地上2階 |
| 延床面積 | 18,786㎡ |
| 工期 | 2022年11月～2024年1月 |

セグメント別ハイライト

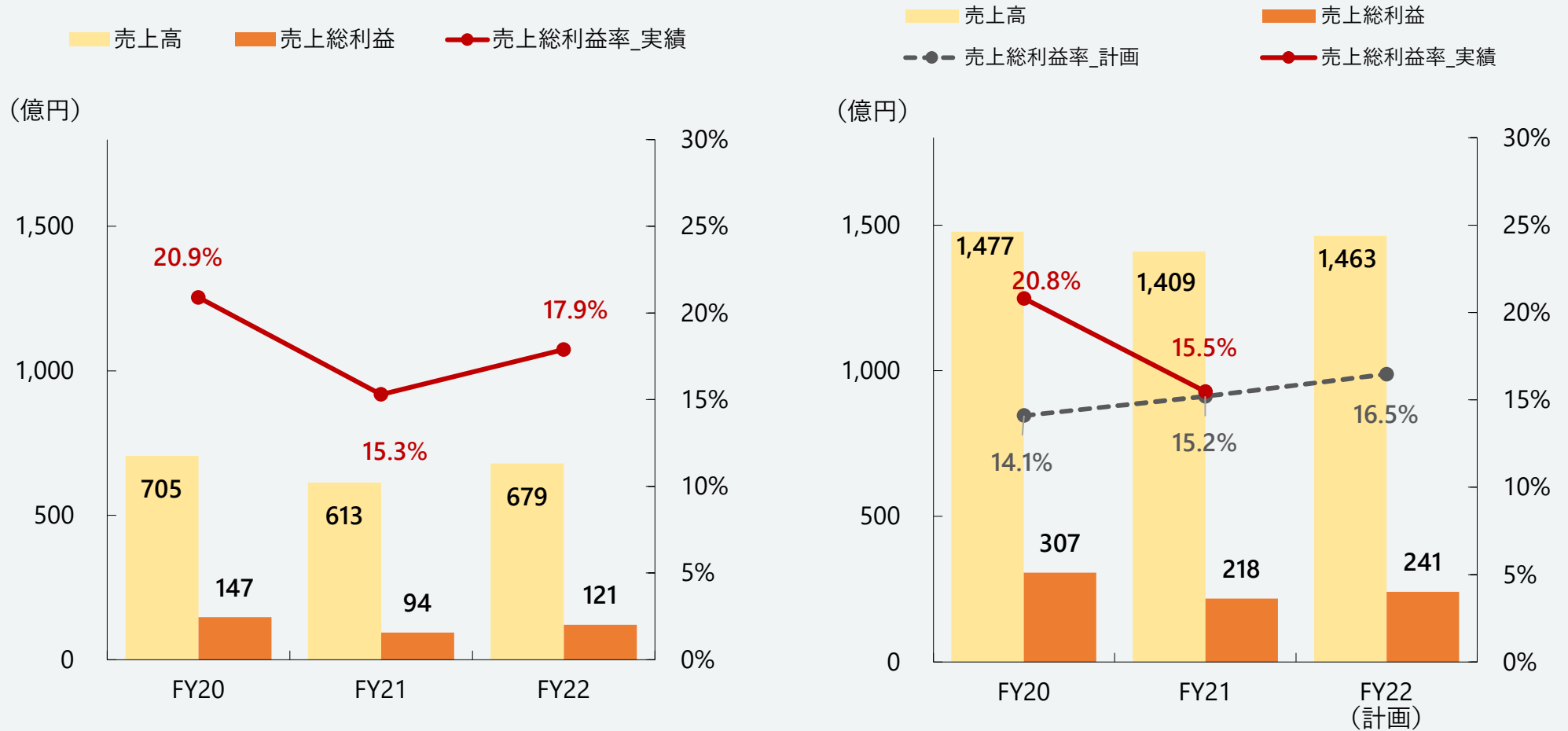
| | | |
|----|-----------|--------|
| 建築 | 土木 | インフラ運営 |
| 舗装 | 機械 | その他 |

5. 土木セグメント 売上高と売上総利益の推移（前田建設 個別 国内）

- FY22 2Q 採算性の良い大型手持工事が順調に進捗し、増収増益
- FY22 通期 計画通りに進捗する見込み。更なる設計変更獲得を図り、増収増益を目指す

第2四半期※

通 期※

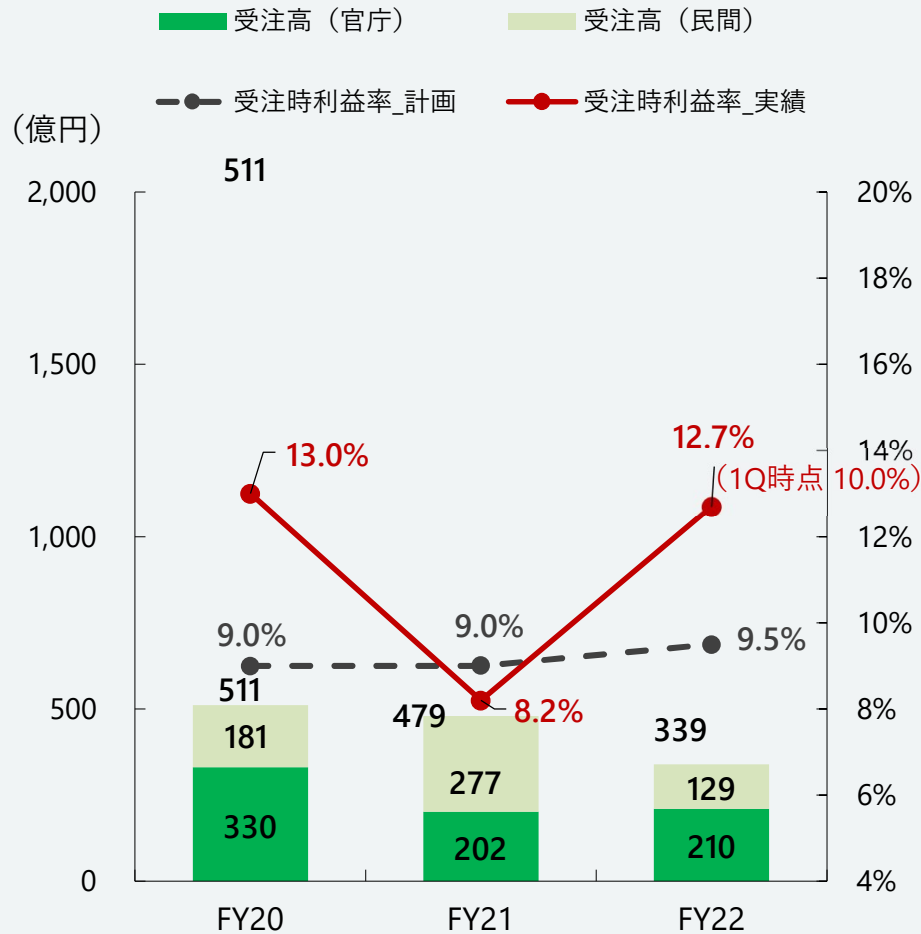


※不動産事業を含む数値のため、FY21以前の数値は公表資料と数値が異なる。

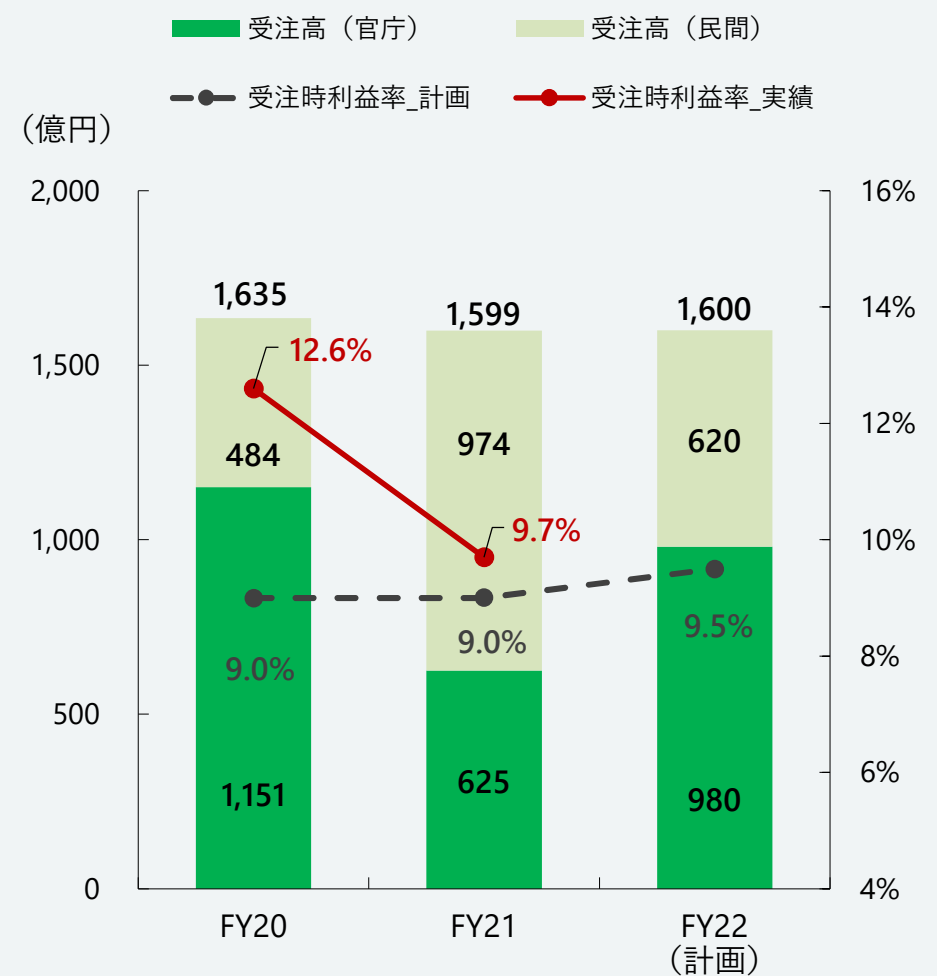
6. 土木セグメント 受注高と受注時利益率の推移（前田建設 個別 国内）

- FY22 2Q 受注高は計画通り進捗しており、受注時利益率も高水準を維持
- FY22通期 下期に集中する大型案件の受注を確保し、通期計画を達成する見込み

第2四半期*



通期*



※不動産事業を含む数値のため、FY21以前の数値は公表資料と数値が異なる。

7. トピックス「山岳トンネル労働災害撲滅に向けた技術開発」

「全自動鋼製支保工建込みロボット」
 ～ワンボタンで鋼製支保工建込みが可能に～



当社・古河ロックドリル(株)・マック(株)共同開発の「鋼製支保工建込みロボット」の自動化に向けた改良・検証を行い現場適用に向けて動作性能を確認。オペレータの技量に依存せずワンボタンで鋼製支保工建込みが可能。切羽の肌落ち災害撲滅と掘削作業における生産性向上に寄与していく。【特許出願中】

■受賞実績

- 2018年 土木学会 土木建設技術発表会 優秀発表賞 受賞
- 2019年 日本トンネル技術協会 施工体験発表会 優秀賞 受賞
- 2020年 第22回国土技術開発賞 国土交通大臣表彰 優秀賞 受賞
- 2022年 第10回ロボット大賞 国土交通大臣賞 受賞

「自動装薬システム」
 ～発破作業における切羽立ち入り作業ゼロの実現へ～



当社と(株)前田製作所はアスラテック(株)、カヤク・ジャパン(株)、古河ロックドリル(株)の協力で、切羽に作業員が立入ることなく、装薬を可能とする「自動装薬システム」を開発。

自社開発した全自動鋼製支保工建込みロボット技術と本技術を組み合わせることにより、社会的課題である切羽肌落ち災害撲滅と技能労働者不足に対処すべく、生産性向上に引き続き取り組んでいく。【特許出願中】



写真3 ICI総合センター模擬トンネル内 実証試験状況

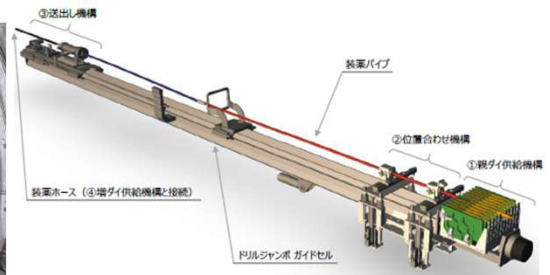


図1 自動装薬システム

セグメント別ハイライト

建築

土木

インフラ運営

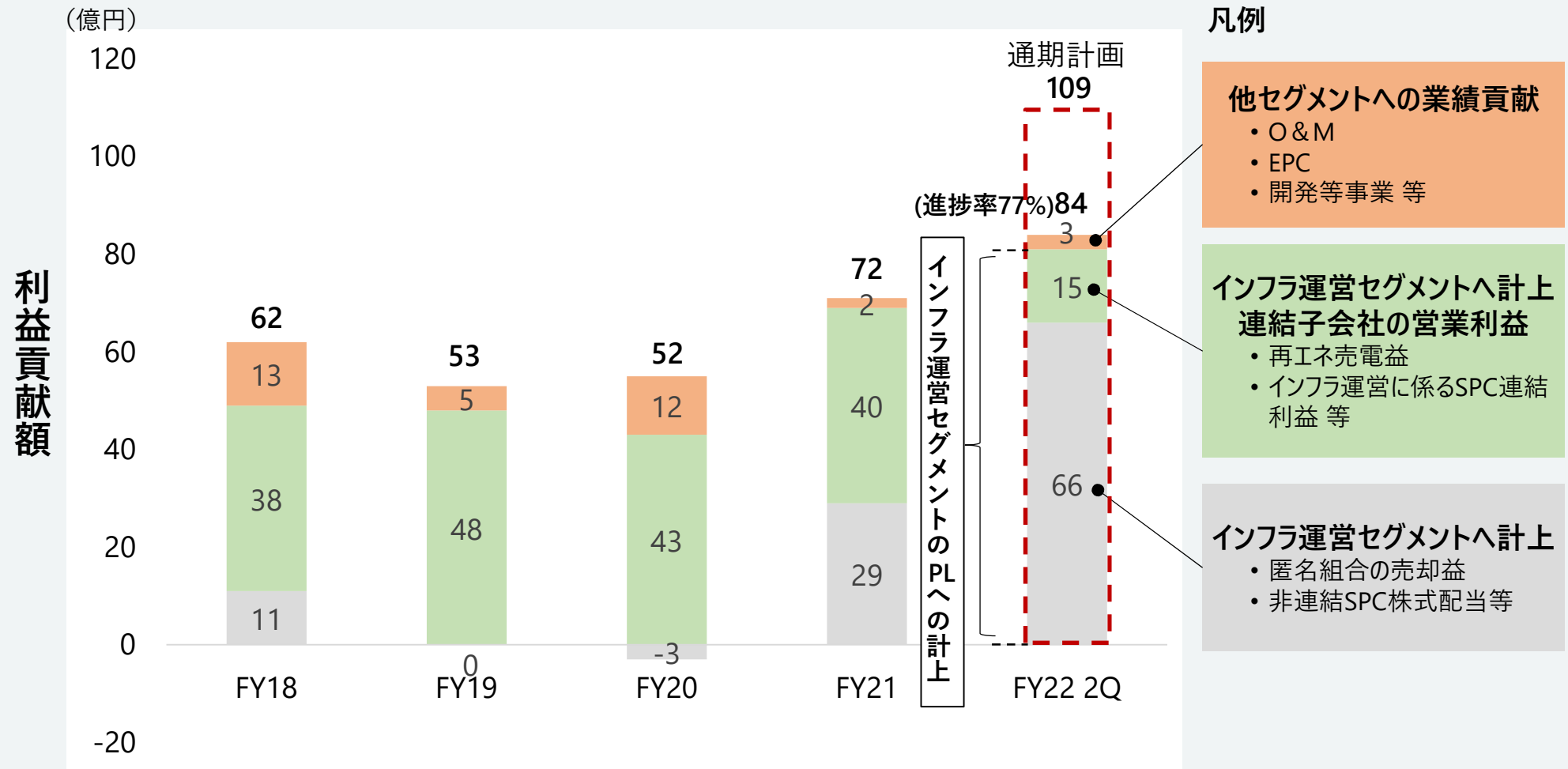
舗装

機械

その他

8. インフラ運営セグメント 利益貢献額について

- 再生可能エネルギー事業において風力1件の売却(1Q時)により、前年同期比で大幅に増収増益
- 三浦市公共下水道コンセッションの基本協定を締結、来年4月からの開業に向け準備中
- 通期の利益貢献額は、**過去最高の109億円**となる見込み



※1 O&M インフラの維持管理に伴う運転管理業務・維持管理業務等
 ※2 EPC インフラ運営事業に伴う設計・調達・建設工事等の一括請負業務

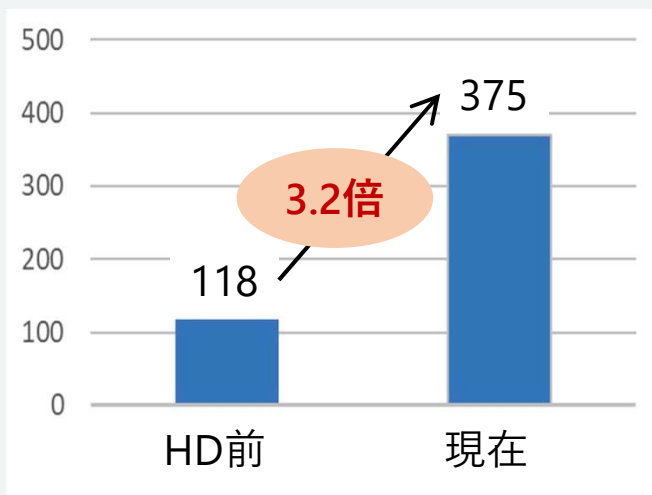
9. HD体制への移行に伴う官民連携の取組実績

- HD発足後、全国のエリアで前田建設、前田道路、前田製作所, JM, エフビーエスが地域ごとに一体となって営業を推進する体制に強化

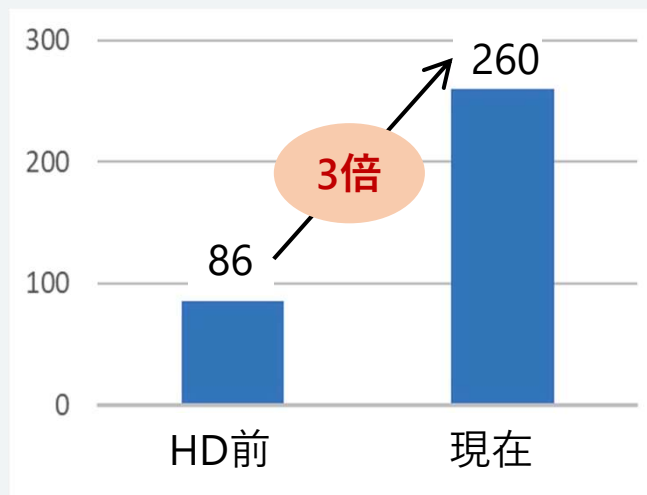
- ✓ 1年間で官民連携プロジェクトの自治体パイプラインが急拡大

- ✓ 当社グループの運営件数も倍増

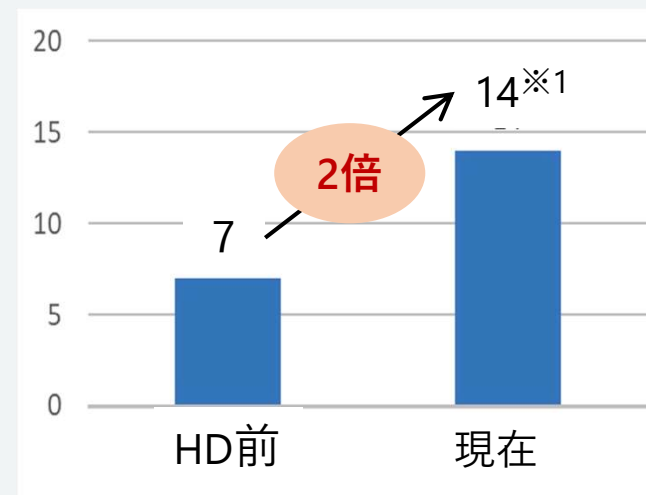
官民連携プロジェクト数



パイプラインを有する自治体数



運営件数（準備中も含む）

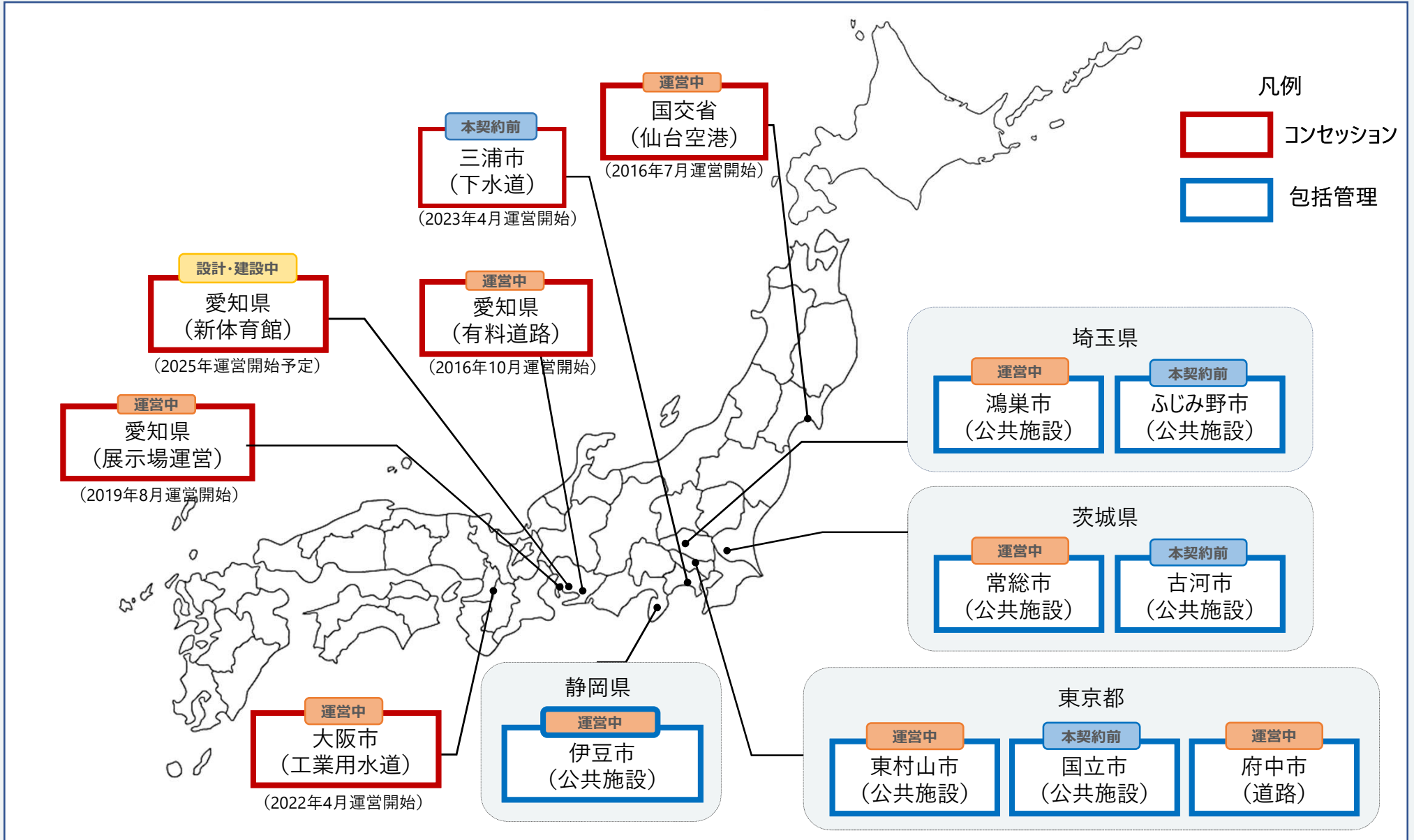


※1 コンセッション
 運営中4件、本契約前2件
 包括管理
 運営中5件、本契約前3件

10. 国内の主なインフラ運営事業

POINT

- ✓ 様々なインフラサービスにおける確かな実績
- ✓ 包括管理業務により、自治体の縦割り構造による非効率を解消し、効率的な一括管理を実施



11. 三浦市公共下水道（東部処理区）運営事業のご紹介

POINT

- ✓ 国内初、一処理区の処理場、ポンプ場、管路の全ての維持管理から更新までを含む下水道コンセッション
- ✓ 小規模自治体の下水道に共通する課題を設備ダウンサイズやデータドリブン経営で解決

| | |
|------|--|
| 発注者 | 三浦市 |
| 事業会社 | 三浦下水道コンセッション株式会社 |
| 構成企業 | 前田建設(49%) 東芝インフラシステムズ(20%) クボタ(20%) 日本水工設計(10%) ウォーターエージェンシー(1%) |
| 期間 | 2023年4月～2043年3月（20年間） |
| 対象 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 東部浄化センター（処理能力：8,050m³/日） ・ 金田中継センター ・ 管路（総延長：58 km ※うち幹線延長：8.45 km） ・ マンホールポンプ 14 箇所 |
| 業務内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共下水道の経営 ・ 改築（土木建築、機電、管路） ・ 処理場・ポンプ場の維持管理 ・ 管路の維持管理 ・ 各種計画（下水道事業計画等）策定支援 |

■ 三浦市東部処理区 区域



セグメント別ハイライト

建築

土木

インフラ運営

舗装

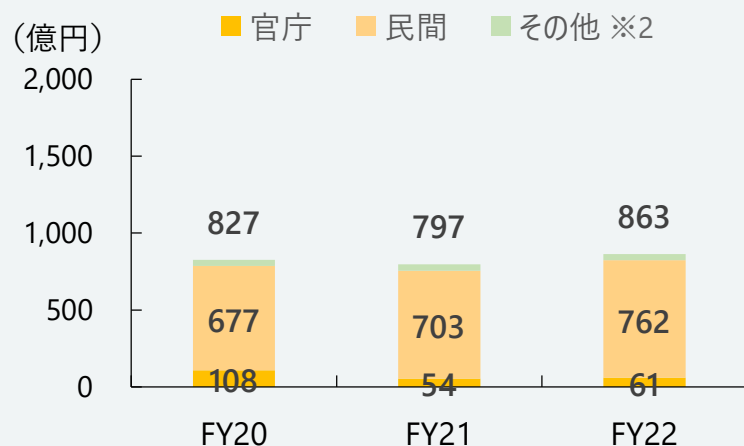
機械

その他

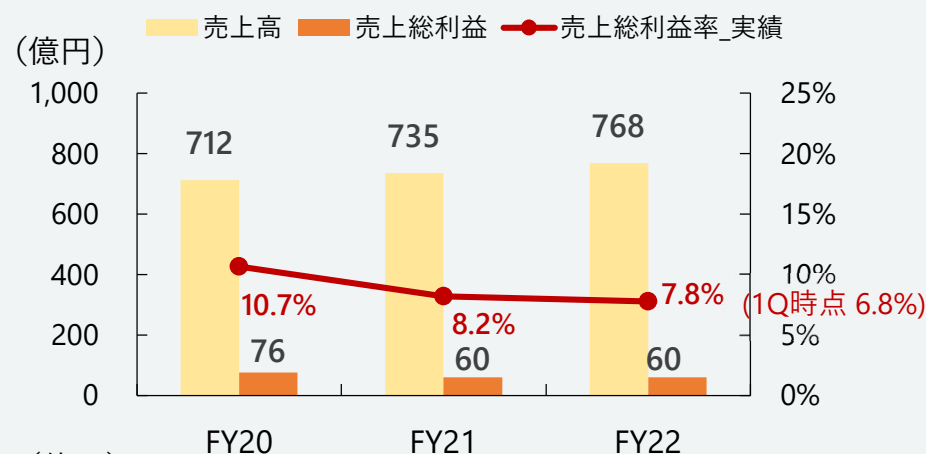
12. 舗装セグメント 受注高、売上高、売上総利益の推移（前田道路 連結 建設事業）

- FY22 2Q 舗装工事における、原材料費の上昇により減益
- FY22通期 工事量の多い下期に向けて、材料費高騰分の見積価格への転嫁が進み、業績改善の見込み

受注高※1

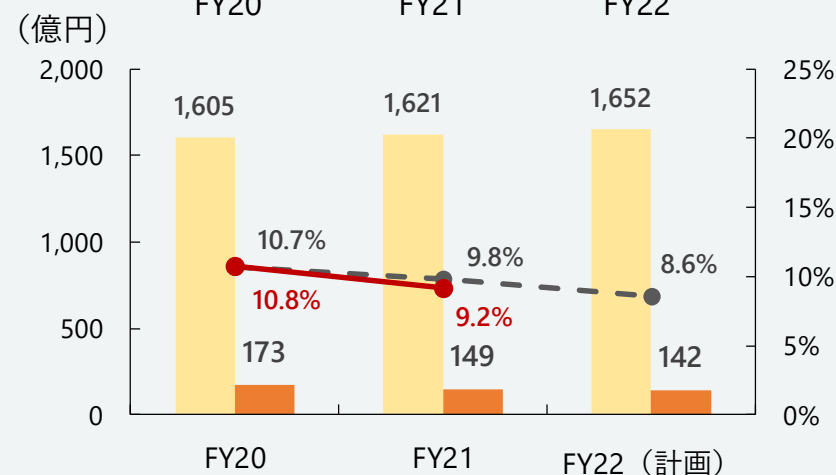
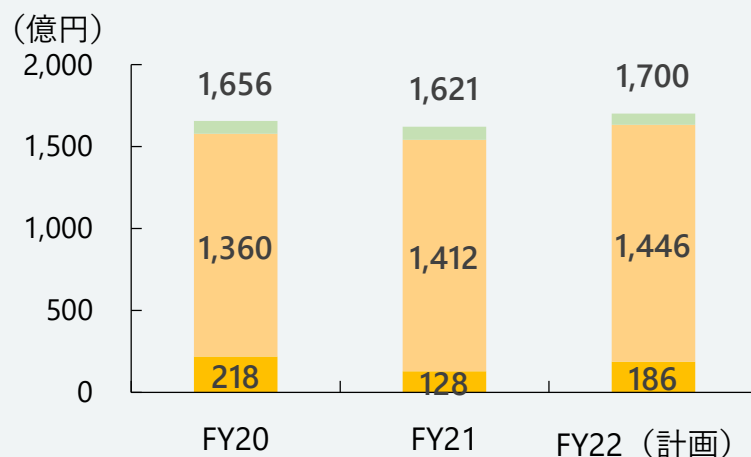


売上高と売上総利益※1



第2四半期

通期



※1 従来の前田道路の連結数値であり、インフロニアグループ内の連結消去を考慮していない。

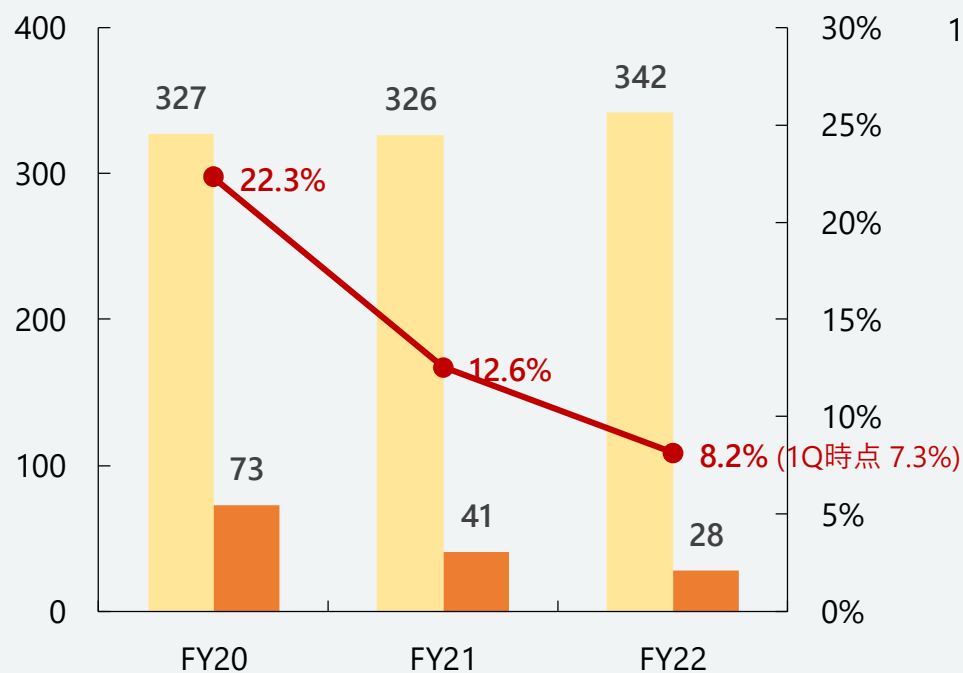
※2 その他：関連会社の受注高（主に官庁工事）及びセグメント内取引消去高

13. 舗装セグメント 売上高と売上総利益の推移（前田道路 連結 製造販売事業）

- FY22 2Q アスファルト合材の販売価格の値上げを進めているが、原油価格の変動に加え、予想以上に円安が進行したことにより、原材料費高騰分を吸収できず、前年同期比減益
- FY22通期 下期に出荷が集中していくため、更なる値上げを実行し、業績改善を見込む

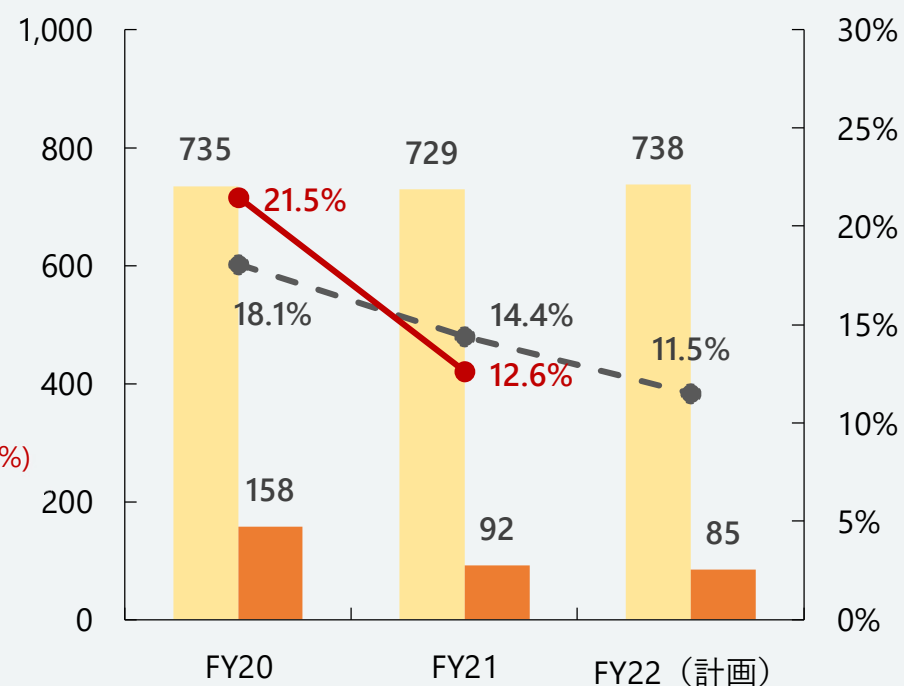
第2四半期※

売上高 売上総利益 売上総利益率_実績



通 期

売上高 売上総利益
売上総利益率_計画 売上総利益率_実績

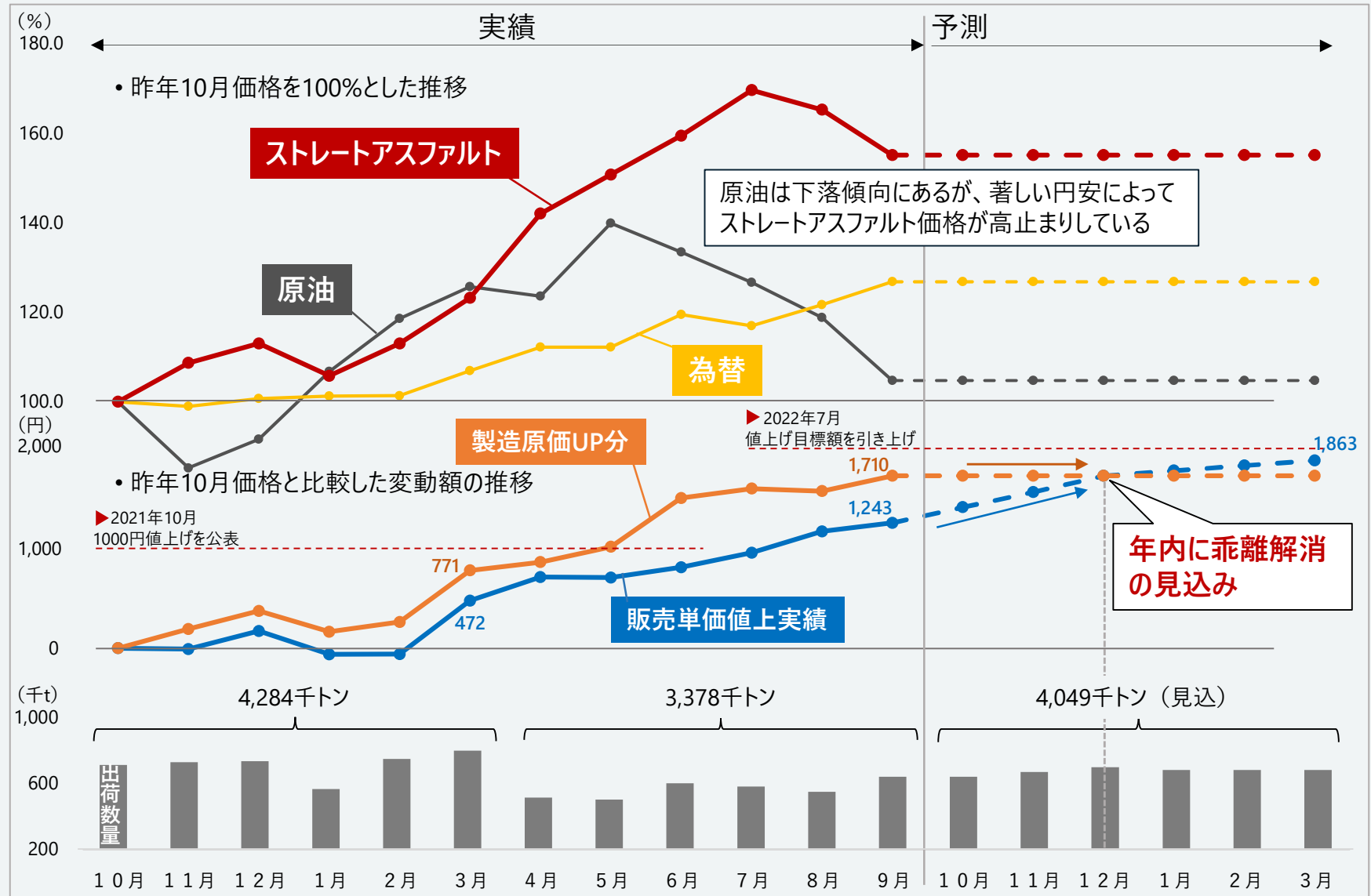


※上記数値は、前田道路の従来連結数値であり、インフロニアグループ内の連結消去を考慮していない

14. 物価高騰の影響について（舗装セグメント）

- アスファルト合材の主材料であるストレートアスファルト価格は、**現状がピークと予測**
- 昨年10月対比の「**製造原価UP分**」と「**販売単価値上実績**」の乖離は年内解消の見込み
今後、値上げ後に契約した物件への出荷が増加することで、**利益は改善していく見通し**

<原価構成要素、製造原価と販売単価、合材出荷数量の推移（2021年10月比）>



セグメント別ハイライト

建築

土木

インフラ運営

舗装

機械

その他

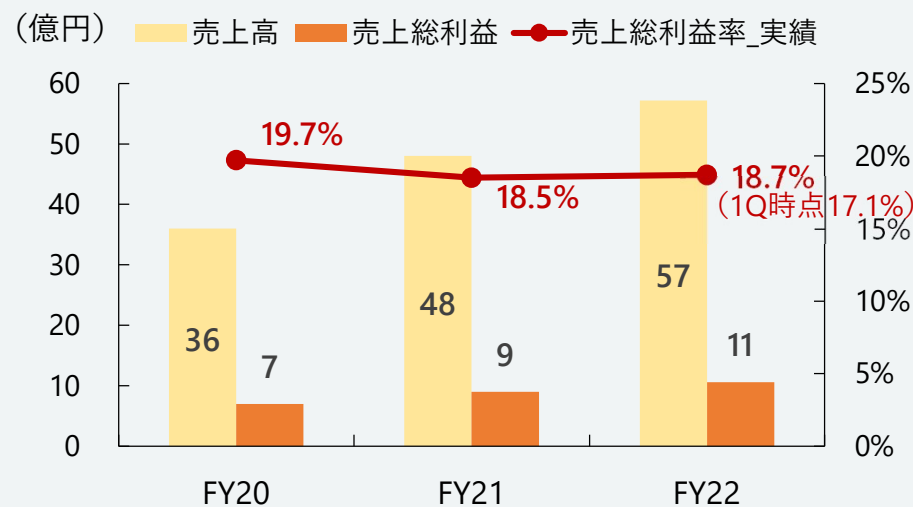
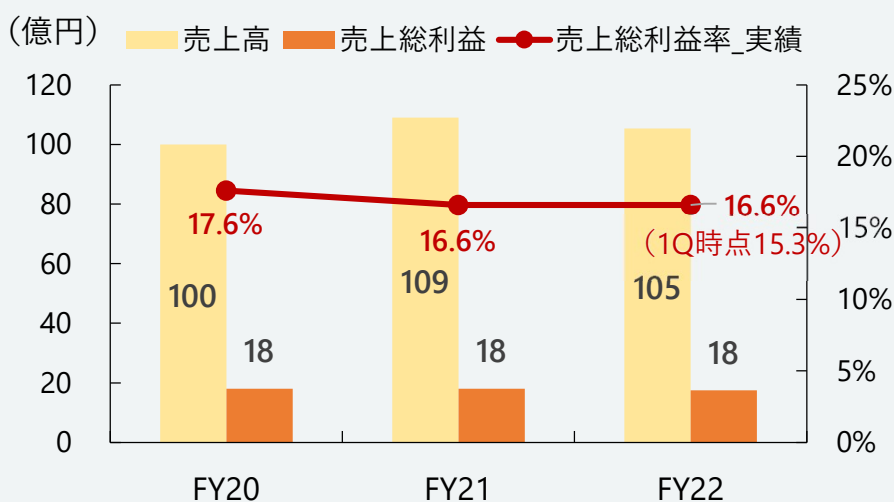
15. 機械セグメント 売上高と売上総利益の推移※1（前田製作所 連結）

- FY22 2Q 産業・鉄構機械等事業のクローラークレーンをはじめとする自社製品の販売が堅調に推移
- FY22通期 下期にかけても、引続き部品供給の遅れ等による影響は懸念されるが、需要は堅調であり、通期業績は前年並みの見込み

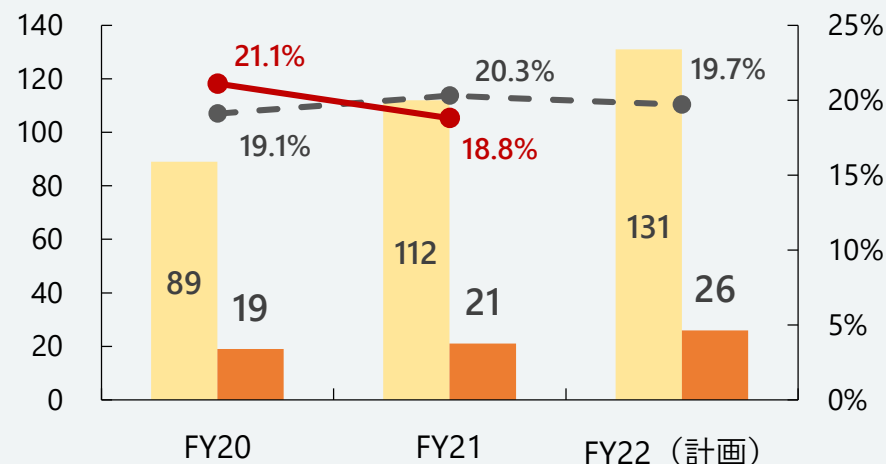
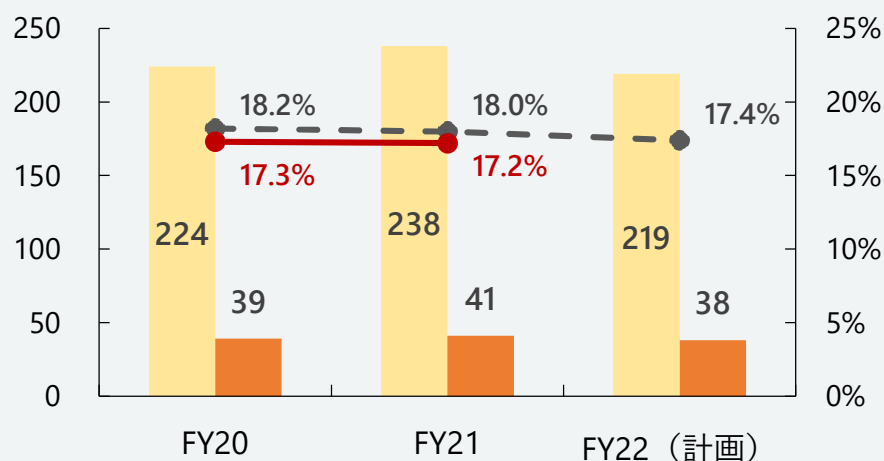
建設機械※2

産業・鉄構機械等※3

第2四半期



通期



※1 機械セグメントの内、主要事業である建設機械事業、産業・鉄構機械等事業の数値

※2 コマツ製品の販売・サービス・レンタルを主体とした事業

※3 クレーン等自社製品の設計・製造・販売を主体とした事業

16. トピックス「カーボンニュートラル製品の市場への投入」



Zero Emissions 排出ガスゼロ リチウムイオンバッテリー搭載機

■ 環境規制が進んだ欧州市場に向けカーボンニュートラル製品ラインナップの拡充

欧州でのカーボンニュートラル製品需要の高まりを受け、新製品を拡充し、需要を取り込む。

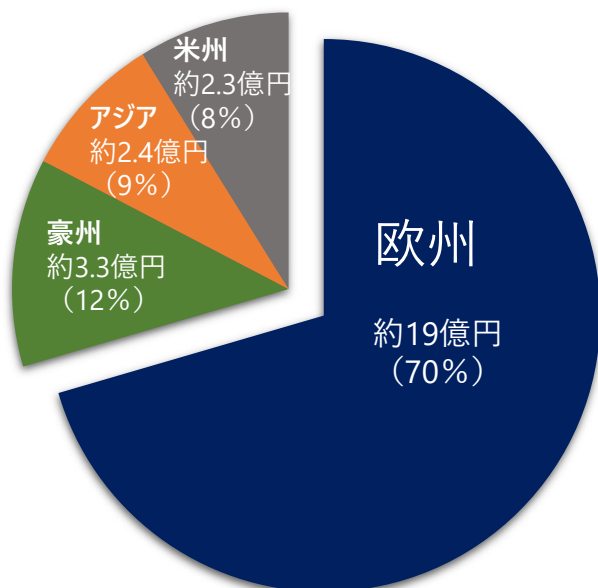
New
CC1485B-1



New
MK3053C



エリア別売上高(2021年度)



世界3大建設機械展の一つ
"Bauma2022"

欧州市場での更なるマーケットシェア獲得に向け、新モデルをお披露目



Appendix

1. 【個別】前田建設 FY22 2Q実績とFY22通期計画

(億円)

| | | FY21 2Q実績 | FY22 2Q実績 | 前年同期比 | FY22 通期計画 | FY22 修正計画 | 進捗率 |
|--------|----|-------------|-------------|-------|-------------|-------------|--------|
| 売上高 | | 1,653 | 1,631 | △ 22 | 4,025 | 3,839 | 42.5% |
| 建築 | 計 | 1,013 | 873 | △ 140 | 2,385 | 2,283 | 38.2% |
| | 国内 | 1,013 | 869 | △ 144 | 2,375 | 2,274 | 38.2% |
| | 海外 | 0 | 4 | 4 | 10 | 9 | 45.4% |
| 土木 | 計 | 615 | 678 | 63 | 1,550 | 1,465 | 46.3% |
| | 国内 | 613 | 679 | 66 | 1,543 | 1,463 | 46.4% |
| | 海外 | 2 | △1 | △ 3 | 7 | 2 | -28.0% |
| インフラ運営 | | 6 | 70 | 64 | 75 | 74 | 94.8% |
| 不動産 | | 20 | 10 | △ 10 | 15 | 17 | 57.1% |
| 売上総利益 | | 200 (12.1%) | 275 (16.9%) | 75 | 582 (14.5%) | 563 (14.7%) | 48.9% |
| 建築 | 計 | 88 (8.7%) | 70 (8.0%) | △ 18 | 259 (10.9%) | 232 (10.2%) | 27.0% |
| | 国内 | 88 (8.7%) | 70 (8.0%) | △ 18 | 258 (10.9%) | 232 (10.2%) | 27.0% |
| | 海外 | 0 — | 0 (6.8%) | 0 | 1 (10.0%) | 1 (11.1%) | 27.7% |
| 土木 | 計 | 95 (15.4%) | 131 (19.2%) | 36 | 241 (15.5%) | 249 (17.0%) | 54.2% |
| | 国内 | 94 (15.3%) | 121 (17.9%) | 27 | 233 (15.1%) | 241 (16.5%) | 52.1% |
| | 海外 | 1 — | 9 — | 8 | 8 (114.3%) | 8 (400.0%) | 114.2% |
| インフラ運営 | | 6 (100.0%) | 70 (99.9%) | 64 | 75 (100.0%) | 74 (100.0%) | 93.5% |
| 不動産 | | 12 (60.0%) | 5 (47.4%) | △ 7 | 8 (53.3%) | 8 (47.1%) | 57.6% |
| 一般管理費 | | 136 (8.2%) | 142 (8.7%) | 6 | 276 (6.9%) | 285 (7.1%) | 49.9% |
| 営業利益 | | 64 (3.9%) | 133 (8.1%) | 69 | 306 (7.6%) | 278 (6.9%) | 47.8% |
| 経常利益 | | 135 (8.2%) | 155 (9.5%) | 20 | 321 (8.0%) | 302 (7.5%) | 51.4% |
| 当期純利益 | | 128 (7.7%) | 145 (8.9%) | 17 | 280 (7.0%) | 287 (7.1%) | 50.5% |

2. 【連結】前田道路 FY22 2Q実績とFY22通期計画

(億円)

| | FY21 2Q実績 | FY22 2Q実績 | 前年 同期比 |
|-------|--------------|--------------|-----------|
| 売上高 | 1,064 | 1,112 | 48 |
| 建設事業 | 735 | 768 | 33 |
| 製造販売 | 326 | 342 | 15 |
| その他 | 3 | 3 | 0 |
| 売上総利益 | 103 (9.6%) | 89 (8.0%) | △ 14 |
| 建設事業 | 60 (8.2%) | 60 (7.8%) | △ 1 |
| 製造販売 | 41 (12.6%) | 28 (8.2%) | △ 13 |
| その他 | 1 (44.4%) | 1 (40.8%) | △ 0 |
| 一般管理費 | 60 (5.6%) | 68 (6.1%) | 8 |
| 営業利益 | 43 (4.0%) | 21 (1.9%) | △ 22 |
| 経常利益 | 44 (4.2%) | 26 (2.3%) | △ 19 |
| 当期純利益 | 43 (4.0%) | 16 (1.4%) | △ 27 |

| | FY22 通期計画 | FY22 修正計画 | 進捗率 |
|--|--------------|--------------|-------|
| | 2,430 | 2,390 | 46.5% |
| | 1,660 | 1,652 | 46.5% |
| | 770 | 738 | 46.3% |
| | — | — | — |
| | 280 (11.5%) | 227 (9.5%) | 39.1% |
| | 174 (10.5%) | 142 (8.6%) | 42.0% |
| | 106 (13.8%) | 85 (11.5%) | 32.8% |
| | — | — | — |
| | 142 (5.8%) | 135 (5.6%) | 50.5% |
| | 138 (5.7%) | 92 (3.9%) | 22.3% |
| | 140 (5.8%) | 96 (4.0%) | 26.8% |
| | 92 (3.8%) | 77 (3.2%) | 20.8% |

3. 【連結】前田製作所 FY22 2Q実績とFY22通期計画

(億円)

| | FY21 2Q実績 | FY22 2Q実績 | 前年 同期比 | FY22 通期計画 | FY22 修正計画 | 進捗率 |
|----------|--------------|--------------|-----------|--------------|--------------|-------|
| 売上高 | 168 | 174 | 6 | 372 | 修正なし | 46.6% |
| 建設機械 | 109 | 105 | △ 4 | 219 | | 48.2% |
| 産業・鉄鋼機械等 | 48 | 57 | 9 | 131 | | 43.6% |
| 介護用品・その他 | 10 | 11 | 1 | 22 | | 48.6% |
| 売上総利益 | 33 (19.6%) | 34 (19.6%) | 1 | 76 (20.3%) | | 45.0% |
| 建設機械 | 18 (16.6%) | 18 (16.6%) | △ 1 | 38 (17.4%) | | 46.2% |
| 産業・鉄鋼機械等 | 9 (18.5%) | 11 (18.7%) | 2 | 26 (19.7%) | | 41.3% |
| 介護用品・その他 | 6 (60.0%) | 6 (53.8%) | △ 0 | 12 (53.0%) | | 49.3% |
| 一般管理費 | 27 (16.0%) | 28 (16.3%) | 1 | 60 (16.1%) | | 47.0% |
| 営業利益 | 6 (3.6%) | 6 (3.4%) | △ 0 | 16 (4.2%) | | 37.1% |
| 経常利益 | 6 (3.8%) | 7 (3.8%) | 0 | 17 (4.5%) | | 39.3% |
| 当期純利益 | 4 (2.6%) | 4 (2.4%) | △ 0 | 11 (3.0%) | | 37.7% |

4. 主なグループ会社のFY22 2Q実績と通期計画

(百万円)

| 連結子会社 | (株)エフビーエス | | | | フジミ工研(株) | | | | (株)JM | | | |
|-------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| | FY21 2Q実績 | FY22 2Q実績 | FY22 通期計画 | FY22 修正計画 | FY21 2Q実績 | FY22 2Q実績 | FY22 通期計画 | FY22 修正計画 | FY21 2Q実績 | FY22 2Q実績 | FY22 通期計画 | FY22 修正計画 |
| 売上高 | 9,803 | 8,106 | 21,382 | 17,000 | 3,338 | 4,056 | 9,000 | 8,800 | 9,548 | 9,203 | 21,000 | 修正なし |
| 営業利益 | 329 | 258 | 986 | 552 | 197 | 87 | 218 | 203 | 116 | 5 | 460 | |
| 経常利益 | 350 | 264 | 996 | 572 | 1,729 | 113 | 245 | 235 | 134 | 5 | 470 | |
| 当期純利益 | 232 | 195 | 650 | 343 | 1,306 | 298 | 246 | 192 | 113 | 0 | 296 | |

| 連結子会社 | 愛知道路コンセッション(株) | | | | みおつくし工業用水コンセッション(株) | | | |
|-------|----------------|--------------|--------------|--------------|---------------------|--------------|--------------|--------------|
| | FY21 2Q実績 | FY22 2Q実績 | FY22 通期計画 | FY22 修正計画 | FY21 2Q実績 | FY22 2Q実績 | FY22 通期計画 | FY22 修正計画 |
| 売上高 | 6,632 | 7,151 | 13,406 | 修正なし | — | 686 | 1,290 | 1,290 |
| 営業利益 | 1,687 | 1,306 | 2,808 | | — | 126 | 126 | 52 |
| 経常利益 | 980 | 700 | 1,606 | | — | 119 | 36 | 36 |
| 当期純利益 | 903 | 639 | 1,476 | | — | 72 | 22 | 22 |

| 持分法 適用会社 | 東洋建設(株) | | | | 光が丘興産(株) | | | |
|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| | FY21 2Q実績 | FY22 2Q実績 | FY22 通期計画 | FY22 修正計画 | FY21 2Q実績 | FY22 2Q実績 | FY22 通期計画 | FY22 修正計画 |
| 売上高 | 66,302 | 64,503 | 162,694 | 修正なし | 1,669 | 1,922 | 3,800 | 修正なし |
| 営業利益 | 2,454 | 2,477 | 8,500 | | 218 | 314 | 500 | |
| 経常利益 | 2,516 | 2,426 | 8,500 | | 2,673 | 1,381 | 1,560 | |
| 当期純利益 | 1,658 | 1,714 | 6,000 | | 2,217 | 1,020 | 1,100 | |

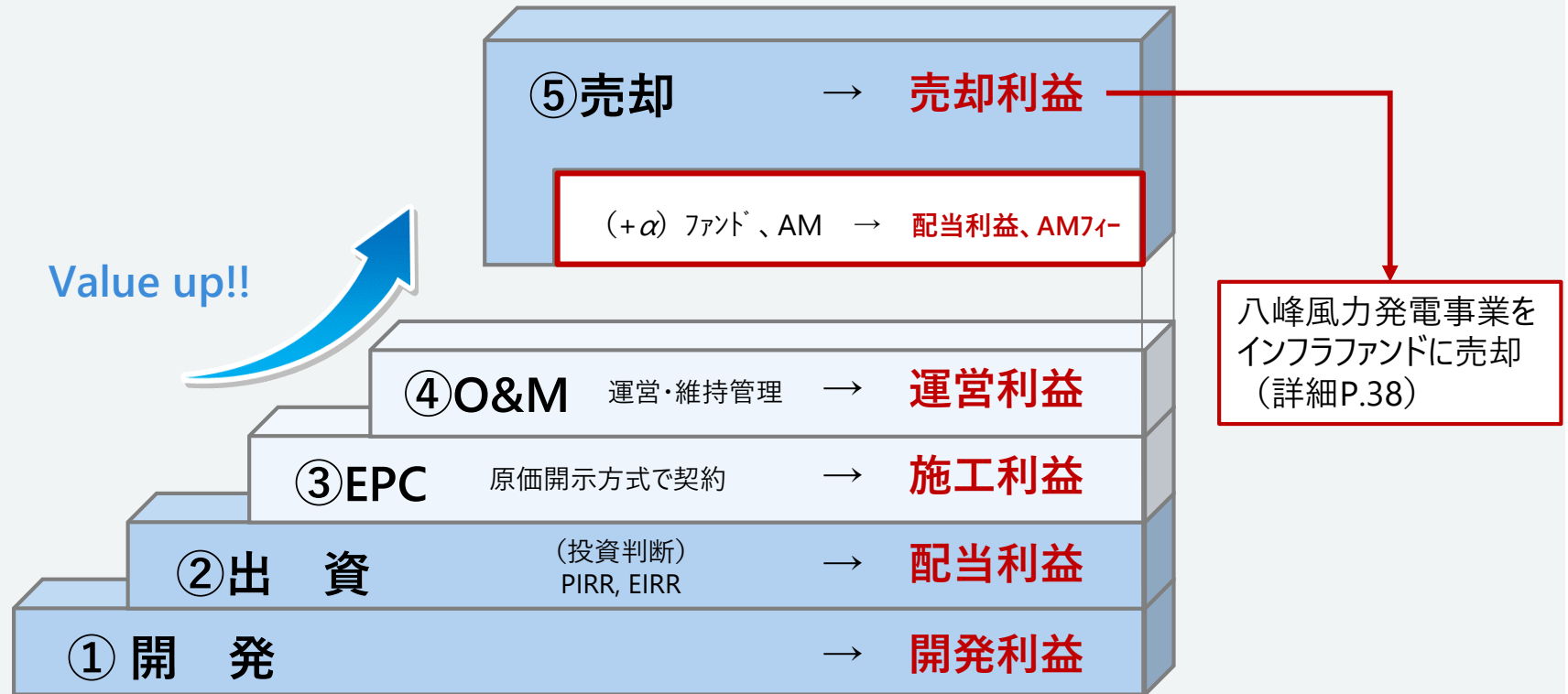
5. セグメント分けの変更

- ・ホールディングス化に伴い、セグメント分けを変更
- ・セグメント変更に伴う業績数値の大きな変化はない

| インフロニア・ホールディングスのセグメント | | これまでの前田建設連結のセグメント | |
|-----------------------|---|-------------------|---|
| 建築事業 | 前田建設工業(株)建築事業 前田建設工業(株)不動産事業 (建築) | 建築事業 | 前田建設工業(株)建築事業 (株)JM Thai Maeda Corporation Limited (株)エフビーエス 建築事業 |
| 土木事業 | 前田建設工業(株)土木事業 前田建設工業(株)不動産事業 (土木) | 土木事業 | 前田建設工業(株)土木事業 (株)エフビーエス 土木事業 |
| 舗装事業 | 前田道路(株) (連結) | 舗装事業 | 前田道路(株) (連結) |
| 機械事業 | (株)前田製作所 (連結) | 製造事業 | (株)前田製作所 (個別) フジミ工研(株) |
| インフラ運営事業 | 前田建設工業(株)インフラ運営事業 匿名組合五葉山太陽光発電 愛知道路コンセッション(株) 匿名組合愛知道路コンセッション 匿名組合美祢太陽光発電 匿名組合八峰風力開発 | インフラ運営事業 | 前田建設工業(株)インフラ運営事業 匿名組合五葉山太陽光発電 愛知道路コンセッション(株) 匿名組合愛知道路コンセッション 匿名組合美祢太陽光発電 匿名組合八峰風力開発 |
| その他 | (株)JM Thai Maeda Corporation Limited (株)エフビーエス フジミ工研(株) | その他 | 前田建設工業(株)不動産事業 (建築・土木) |

6. インフラ運営事業のビジネスモデル

- インフラ運営事業は、インフラの上流～下流（売却までを含める）までの全ての段階（①～⑤）で、収益を獲得するビジネスモデルである



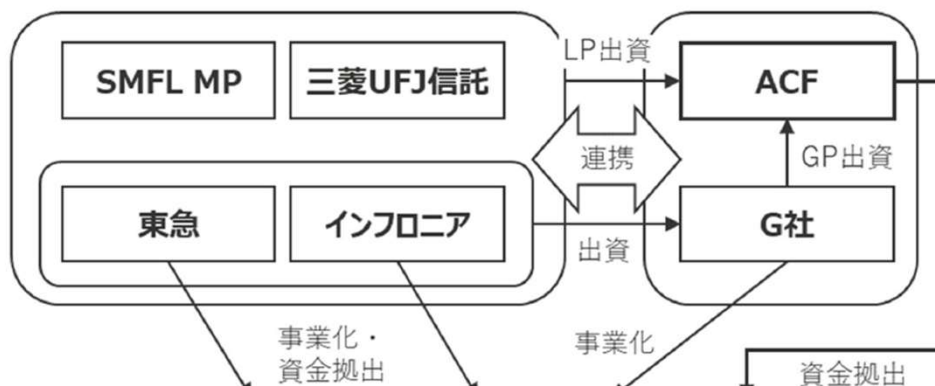
- 事業から5段階 + αで収益を獲得
- 施工ノウハウの強みを活かす（開発、EPC、O&M）

7. インフラ運営事業の新たな事業プラットフォームの構築

- 当社は、東急(株)、グローバル・インフラ・マネジメント(株)（当社と東急(株)が50%ずつ出資）、三井住友ファイナンス&リース株式会社（「SMFL」）および三菱UFJ信託銀行株式会社と共に、アセット・クリエーション・ファンド・シリーズ（「ACF」）とインカム・ファンド・シリーズ（「ICF」）という2種類のインフラファンドを含む、新たな事業プラットフォームを構築
- PPPや環境エネルギー分野などの近年注目されているインフラ事業領域での、更なる事業展開と国内インフラ資本市場の発展促進を目指す

<ACFファンド>

事業領域 1：国内インフラ事業の事業化/案件化領域



<インフラ事業現場における案件化&ファイナンス・ニーズ>

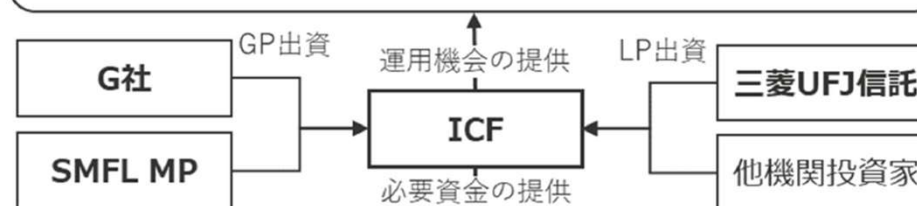
- 柔軟性や機動性の高い資金の需要（開発、公募・入札案件など）
- 事業化やキャッシュフローの安定化まで時間を要する機会
- ルール整備やスキーム作りの支援から求められる機会

<ICFファンド>

事業領域 2：国内インフラ資本市場領域

<国内機関投資家の国内インフラ事業分野での資金運用ニーズ>

- 安定的キャッシュフローの獲得
- ファンド運用者/事業者の事業運営能力とバリューアップ能力
- 適正なガバナンスとコンプライアンス



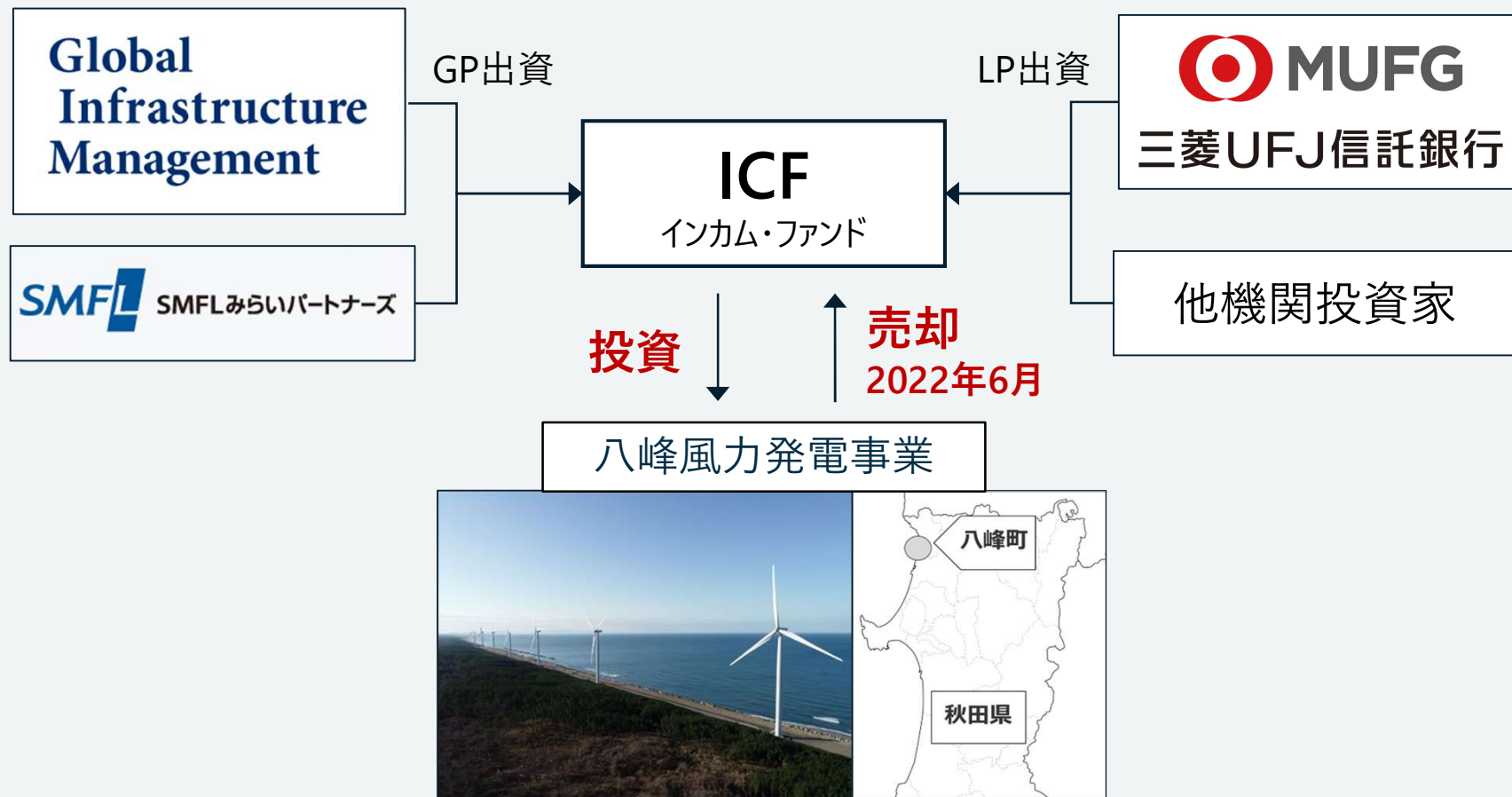
<インフラ事業関係者/事業主からのファイナンス・ニーズ>

- 事業の継続性、運営能力と責任感
- 安心感（顔が見える）と長期安定保有（売らない投資家）
- 資金（量）提供能力と資本コスト

2022年7月5日当社プレスリリース『新たなインフラ事業プラットフォームの構築について』より

8. インカム・ファンドにおける第1号投資案件

- グローバル・インフラ・マネジメント(株)（当社と東急(株)が50%ずつ出資）と、SMFLみらいパートナーズ(株)は、インフラ事業等を投資対象としたインフラファンドであるインカム・ファンド（ICF）を国内機関投資家と共同で組成
- 第1号投資案件として、秋田県八峰町の風力発電事業へ投資

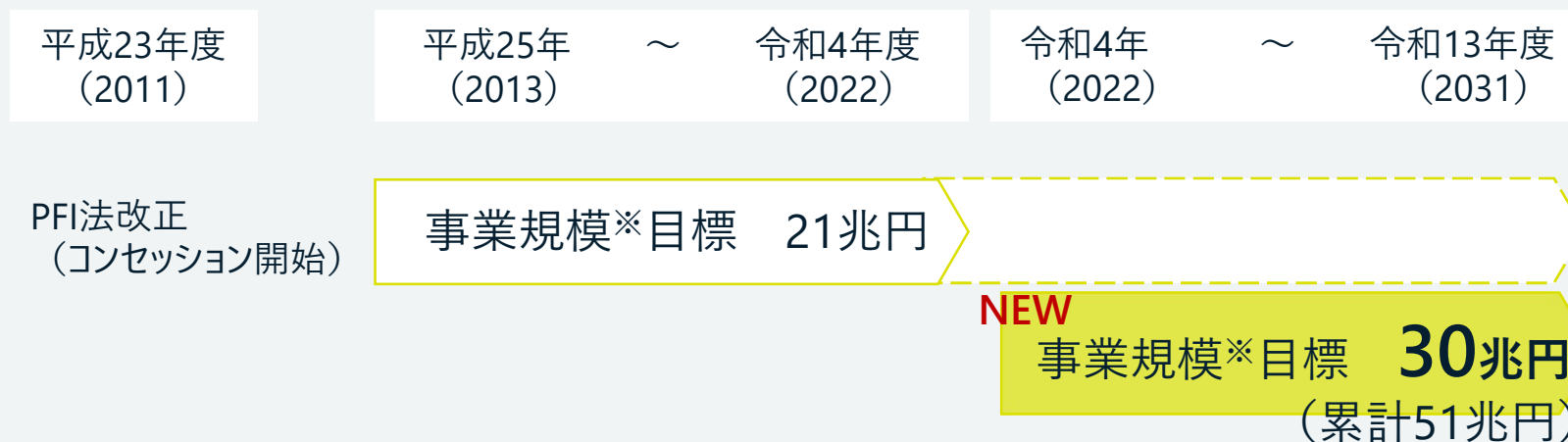


9. 政策動向：PPP/PFI推進アクションプラン（令和4年度改訂版）が内閣府より公表

岸田政権はPPP/PFIを**新しい資本主義の中核**として位置付け

- PPP/PFI推進アクションプランとは、PPP/PFI推進を目的として事業規模目標や重点分野の設定、PPP/PFI推進に向けた取組みを進めるための実行計画を定めたもの
(PFI法に基づく民間資金等活用事業推進会議にて決定、内閣府PPP/PFI推進室が発表)
- 本アクションプランについては、進捗や課題フォローアップ等を踏まえて毎年更新
- 今年度は事業規模目標の更新タイミングで、**新たな事業規模目標***が掲げられた

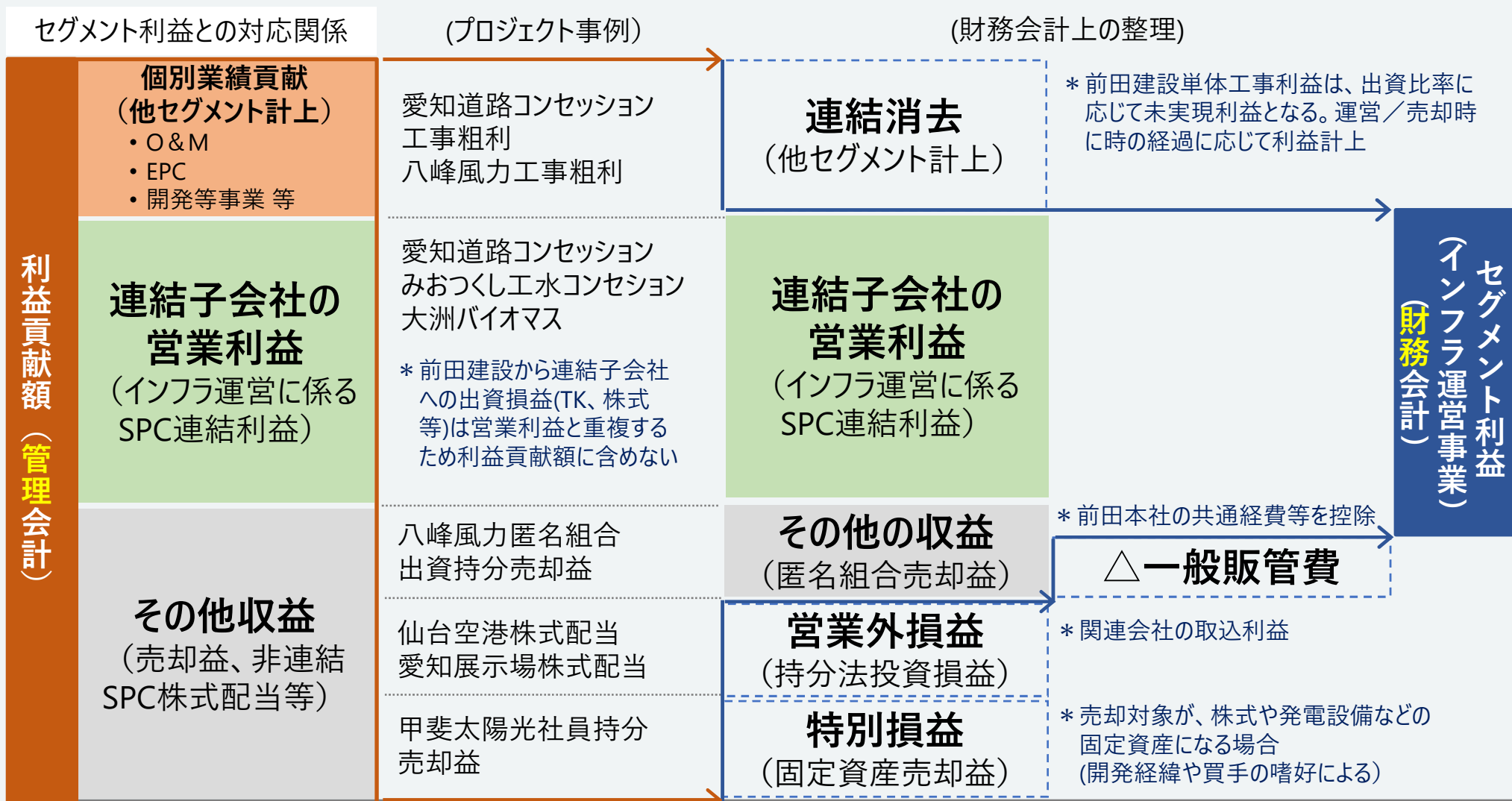
➤ インフロニアの中期経営計画策定時（2021年度）の**想定を大きく超える事業規模目標**



※ この場合の事業規模とは、この期間に契約締結した事業から見込まれる民間事業者の契約期間中の総収入であって、年間の売上高ではないことに留意が必要

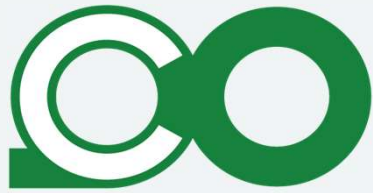
10. インフラ運営セグメント「利益貢献額」と「セグメント利益」の違いについて

- 「利益貢献額」は、連結子会社個別の工事粗利、その他収益、営業利益を合計した**管理会計上の実質的な貢献額**。出資比率や売却スキームにより、連結上の利益表示箇所が異なることを考慮したもの
- 連結財務諸表の「セグメント利益(インフラ運営事業)」は、利益貢献額に含まれる工事利益などを連結消去し、管理部門の**共通経費を控除した財務会計上の営業利益**で、営業外/特別損益を計上する前の値



11. トピックス「低炭素合材の推進」

低炭素合材
 従来方式よりも低炭素な製造手法によって製造されたアスファルト合材の総称



低炭素合材
MAEDA ROAD

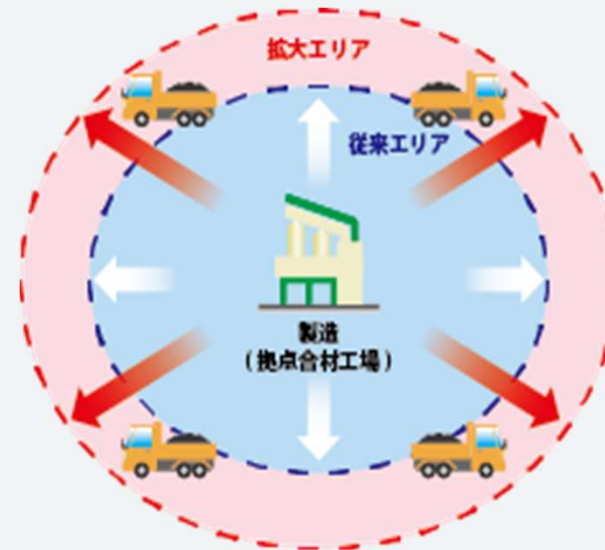
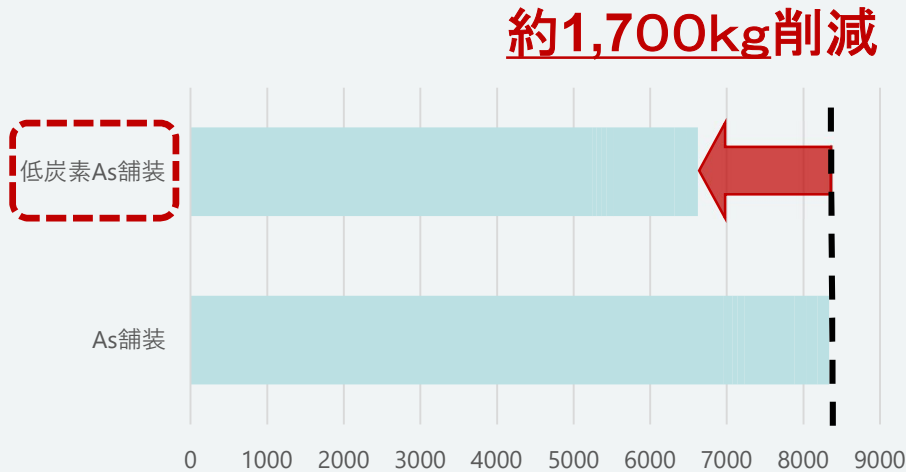
- 中温化合物 (LEAB)
- 蓄熱式脱臭炉
- RE100電力
- カーボンニュートラル燃料

前田道路独自の技術と先進的な
 取り組みにより、**競争力を強化**

◆CO2排出削減量による競争力の強化

(施工面積1,000m² 施工厚さ5cmのアスファルト舗装を行った場合)

◆運搬可能エリア拡大による競争力の強化



運搬可能時間
75分延長

12. トピックス 「統合報告書2022 ～安全安心とサステナビリティ～」

INFRONEER 統合報告書2022 ～安全安心とサステナビリティ～を発行しました (発行日：2022年10月3日)

全ての取り組みは、 社会課題解決と企業価値向上につながる

当社は、本統合報告書をステークホルダーの皆様と当社の重要なコミュニケーションツールであるとともに、ステークホルダーの皆様同士のコミュニケーションツールと位置付けています。

本統合報告書を通じて、当社の永続的な価値創造プロセスと地域・社会への価値提供についてご理解いただき、ステークホルダーエンゲージメントを積み上げ、社会・企業価値向上に寄与することを目指しています。

具体的には、①インフラを取り巻く喫緊の社会課題、②その解決に向けたインフロニアの考えと取り組み（ビジネスモデル）、③それによって実現される未来（VISION）について、全てのステークホルダーの皆様のご理解につなげ、共感を得ること、さらには「ともに、インフラの未来に挑む」ステークホルダーの関係性強化と獲得を目的としています。

「INFRONEER2022」の構成

【序章】課題認識&VISION

【第1章】トップの情熱

【第2章】私たちが目指す未来

【第3章】インフロニアの経営計画

【第4章】安全安心と信頼への取り組み

【第5章】IR情報

【最終章】価値創造の源泉



「INFRONEER2022」WEB版は記載のQRコード/URL

よりダウンロードください。

https://www.infroneer.com/jp/company/integrated_report/report.html



News 1

YouT ubeチャンネル「馬淵磨理子の株式クラブ」で、対談第2弾が公開されました！！

経済アナリストの馬淵磨理子氏と当社社長である岐部の対談第2弾。馬淵氏の鋭い視点から当社が考えるDXの定義、必要性、目指す姿等について深掘りしていただきました。

是非ご覧ください！



リリース



YouTube

リリース URL : <https://www.infroneer.com/jp/news-article/2022/11/01/589.html>

YouTube URL : <https://www.youtube.com/watch?v=QsXkDHCbKtQ>



News2

インフロニア・ホールディングス 公式Facebook、Instagram



インフラの未来に挑戦するインフロニアの姿をもっと多くの人に知ってもらいたい、という想いからFacebookとInstagramで情報発信を行っています。

ぜひフォロー & いいね！をお願いします！



Facebook



Instagram

Facebook URL : <https://www.facebook.com/infroneer.hd/>

Instagram URL : <https://www.instagram.com/infroneer.hd/>

News3

Kibe-log 岐ベログ

インフロニア・ホールディングスが何を考え、どういう社会の実現を目指しているのかを全てのステークホルダーにお伝えるため、社長の岐部が考えていることを発信していきます。



岐ベログ

岐ベログURL : <https://www.infroneer.com/jp/company/topblog.html>

～バックナンバー～

- 第1回：インフロニアが考えるインフラの未来
- 第2回：ホールディングス体制に移行した理由
- 第3回：建設コストの「原価開示」が重要だと考えるわけ
- 第4回：セカンダリー市場が拓くインフラ投資
- 第5回：インフラ投資を阻害する名ばかりノンリコースローン
- 第6回：ガーナ有料道路コンセッションというチャレンジ
- 第7回：インフロニアが考える「DX」

【注意事項】

本資料に記載されている業績数値は、決算短信の数字を億円単位とし、四捨五入しております。
また、業績計画等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、実際の業績は、様々な要素により記載の数値とは異なる結果となる可能性があります。

インフラの未来に挑む
Challenge the status quo

 **INFRAFRONTIER Holdings Inc**